

気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書 4

平成 27 ~ 30 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘
調査事業に伴う公共事業・個人住宅等関連遺跡発掘調査

2020 年 3 月

気仙沼市教育委員会

序 文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震が引き起こした巨大津波は、東日本の沿岸部を襲い、本市においても沿岸部を中心に壊滅的な被害をもたらし、被災家屋約 16,000 棟、被災世帯約 9,500 世帯、1,200 人を超える尊い命が犠牲となりました。

この未曾有の大震災からの一日も早い復旧・復興を目指し、個人での住宅再建をはじめ、高台への集団移転、各種産業施設やインフラ関係等で大規模な開発計画に伴い、埋蔵文化財とのかかわりが急増いたしました。

本市には、縄文時代の貝塚や集落跡、中世の城館跡など 180 か所以上の遺跡が知られていますが、これらの多くは沿岸部の丘陵地帯に立地しているため、津波の浸水域を避けた土地を求める場合、必然的に埋蔵文化財とのかかわりが発生する可能性が増大するという地理的な状況にあります。

気仙沼市教育委員会では、復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との両立を図るため、職員の再任用や任期付職員の採用に加え、宮城県や他自治体へ職員の派遣要請を行い、埋蔵文化財の発掘調査に対応する専門職員を確保するほか、宮城県教育委員会をはじめ関係機関に調査支援を要請するなど調査体制を整備してまいりました。

本書は、平成 27 年度から 30 年度に、本市が国の東日本大震災復興交付金事業として実施した、個人住宅建築等に関連する埋蔵文化財発掘調査成果を集成した報告書ですが、収録した考古学的成果は、これまであまり知られていなかった当地域の歴史を解明する貴重な資料となるものです。

太古から幾多の大津波や自然災害を克服しながら、手強い海と深くかかわる一方、豊かな海の恩恵を受け、この地に根差した文化を育んできた人びとの営みの一端を記録し伝えることが地域の再発見につながるとともに、大震災後の本市の復旧・復興に向けたまちづくりの一助となれば幸甚に存じます。

結びに、円滑な埋蔵文化財発掘調査にご協力をいただいた事業者の皆様、宮城県教育委員会、本市の埋蔵文化財発掘調査のため支援をいただきました全国からの自治法派遣職員の皆様並びに派遣元自治体の皆様など、ご支援を頂いた多くの関係者・関係機関の皆様に厚く御礼を申し上げます。

令和 2 年 3 月

気仙沼市教育委員会
教育長 小山 淳

例 言

- 1 本書は、平成 27 年度から平成 30 年度に実施した、東日本大震災の復興事業に伴う公共事業および個人住宅建築等に係る埋蔵文化財発掘調査（復興交付金事業）の成果をまとめた報告書である。
- 2 各遺跡の発掘調査は気仙沼市教育委員会が主体となって実施し、宮城県教育庁文化財課の支援を受けた。
- 3 各遺跡の調査図面及び出土遺物の整理、報告書作成作業は、平成 30 年度から令和元年度に気仙沼市教育委員会が実施した。
- 4 現地発掘作業における記録図面作成および写真撮影は各調査担当者が行った。
- 5 本書掲載遺物の実測は、青木 昭和、須藤 好直が行い、執筆、編集、製図は、青木が行った。
- 6 周知の埋蔵文化財包蔵地には、基本的にアルファベットで遺跡略号が付与されており、本書に掲載した遺跡では、波路上西館跡：H K N、波路上西遺跡：H J K、古館貝塚：K O D、緑館遺跡：M I D、長磯浜遺跡 N H、猿喰東館跡：S A R であるが、調査当時、谷地館跡については略号が付与されていなかったため、片仮名で「ヤチ」としている。出土遺物への注記は、各遺跡略号を頭に、出土地点、層位、出土年月日を記載した。
- 7 発掘調査面積については本書記載のものを確定面積とする。本文中の遺構規模（径、長さ、深度等）は遺構検出面での計測値である。
- 8 出土遺物、実測図・写真等の記録類は気仙沼市教育委員会が保管し、今後、展示・活用を図る予定としている。
- 9 調査補助として公益社団法人気仙沼市シルバー人材センターの協力を得た。また、機械掘削業務は株式会社小松工業に委託した。
- 10 調査において次の方々と諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略）
田口 哲也、気仙沼市森林組合

凡 例

- 1 本書における遺構略号は、S A：柵列・杭列、S B：掘立柱建物跡、S I：竪穴建物跡、S K：土坑、S T：土壙墓、S X：性格不明遺構、P：ピットである。
- 2 挿図の縮尺は図ごとに記載した。また、図に示す方位は真北を基本としているが、一部磁北を採用している（図面には M N と表記。なお、気仙沼市周辺の磁気偏角は、2015 年値で西偏 8°10' である）。また、挿図に表示したグリッドは世界測地系（平面直角座標系 X 系）に基づいている。標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準としている。
- 3 土色は『新版標準土色帖』（小山・竹原 1996）に倣っているが、土質等の表現は現場調査担当者による注記等を採用している。ただし、本書作成にあたり一部文言の整合を行っている。
- 4 遺物実測図において、石器の網掛けは被熱等による変色範囲を、矢印は磨面の範囲を示している。遺構実測図は必要に応じて挿図端に凡例を示している。

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
第1章 調査の経過	
1. 東日本大震災後の対応・予算措置等	1
(1)東日本大震災後の対応	1
(2)調査体制	2
(3)復興交付金事業にかかる予算措置	3
2. 確認調査	3
3. 本発掘調査	5
4. 整理作業	5
第2章 波路上西館跡・波路上西遺跡（防災広場整備造成工事）	
1. 調査に至る経過	8
2. 調査成果	8
3. まとめ	29
第3章 古館貝塚	
1. 調査に至る経過	33
2. 調査成果	33
3. まとめ	35
第4章 波路上西館跡・波路上西遺跡（市道向原岩井崎線道路災害復旧事業）	
1. 調査に至る経過	36
2. 調査成果	36
第5章 緑館遺跡	
1. 調査に至る経過	38
2. 調査成果	38
3. まとめ	49
第6章 長磯浜遺跡	
1. 調査に至る経過	50
2. 調査成果	51
3. まとめ	52
第7章 猿喰東館跡	
1. 調査に至る経過	53
2. 調査成果	53
3. まとめ	55
第8章 谷地館跡	
1. 調査に至る経過	56

2. 調査成果	56
引用・参考文献	58
報告書抄録	

挿図目次

第 1 図 気仙沼市の位置と遺跡の分布	4	第 20 図 24 レンチ遺構断面図	26
第 2 図 波路上西館・波路上西遺跡位置図	8	第 21 図 24 レンチ出土遺物（鉄製品）	27
第 3 図 波路上西館・波路上西遺跡調査地	9	第 22 図 24 レンチ出土遺物（銭貨拓影）	29
第 4 図 1 レンチ出土遺物	10	第 23 図 古館貝塚位置図	33
第 5 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 1 レンチ 遺構平面図	10	第 24 図 古館貝塚レンチ配置図および土層 断面・柱状図	34
第 6 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 1 レンチ 遺構断面図(1)	11	第 25 図 古館貝塚出土遺物	35
第 7 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 1 レンチ 遺構断面図(2)	12	第 26 図 波路上西館・波路上西遺跡位置図	36
第 8 図 2 レンチ出土遺物	13	第 27 図 波路上西館跡・波路上西遺跡レンチ 配置図・土層柱状図	37
第 9 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 2 レンチ S B 1 各ピット断面図	13	第 28 図 緑館遺跡位置図	38
第 10 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 2 レンチ 遺構平面図	14	第 29 図 緑館遺跡レンチ配置図	39
第 11 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 2 レンチ 遺構断面図(1)	15	第 30 図 緑館遺跡調査区平面図（西半部）	42
第 12 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 2 レンチ 遺構断面図(2)	16	第 31 図 緑館遺跡調査区平面図（東半部）	43
第 13 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 8 レンチ 遺構平面図	17	第 32 図 緑館遺跡 SH179 平面・断面図	44
第 14 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 8 レンチ 遺構断面図	18	第 33 図 緑館遺跡遺構断面図(1)	46
第 15 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 16 レンチ 遺構平面図	19	第 34 図 緑館遺跡遺構断面図(2)	47
第 16 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 16 レンチ S I 1 遺構平面・断面図	20	第 35 図 緑館遺跡遺構断面図(3)	48
第 17 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 16 レンチ 柵列・ピット平面・断面図	21	第 36 図 緑館遺跡出土遺物	49
第 18 図 16 レンチ出土遺物	23	第 37 図 長磯浜遺跡位置図	50
第 19 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 24 レンチ 遺構平面図	25	第 38 図 長磯浜遺跡確認調査レンチ配置図	50
		第 39 図 長磯浜遺跡本調査遺構平面図	51
		第 40 図 長磯浜遺跡出土遺物	52
		第 41 図 猿喰東館跡位置図	53
		第 42 図 猿喰東館跡確認調査レンチ配置図	54
		第 43 図 猿喰東館跡確認調査 2017-1 レンチ 2 レンチ遺構断面図	55
		第 44 図 谷地館跡位置図	57
		第 45 図 谷地館跡確認調査レンチ配置・断面図	58

表目次

第1表 平成27年度～30年度復興事業関連発掘 調査一覧	6・7	第4表 24トレンチ出土小砾法量	30
第2表 調査トレンチ一覧	8	第5表 緑館遺跡検出遺構一覧(1)	45
第3表 波路上西館跡・波路上西遺跡 16トレンチ柵列・ピット土層	22	第6表 緑館遺跡検出遺構一覧(2)	46

写真目次

写真1 波路上西遺跡16トレンチ出土遺物	24	写真8 緑館遺跡確認調査トレンチ	40
写真2 波路上西遺跡24トレンチ出土遺物	28	写真9 緑館遺跡本調査発掘現場	41
写真3 波路上西遺跡24トレンチ出土小砾	30	写真10 長磯浜遺跡発掘現場	52
写真4 波路上西遺跡発掘現場(1)	31	写真11 猿喰東館跡発掘現場	56
写真5 波路上西遺跡発掘現場(2)	32	写真12 谷地館跡2次調査トレンチ全景	58
写真6 古館貝塚確認調査トレンチ	35		
写真7 波路上西館跡・波路上西遺跡 確認調査トレンチ	37		

第1章 調査の経過

1. 東日本大震災後の対応・予算措置等

(1) 東日本大震災後の対応

①埋蔵文化財の取り扱いについて

平成23年3月11日の東日本大震災の発生を受け、文化庁は、発災後の平成23年4月28日付け（23府財第61号）で「東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）」により、宮城県を含む1都7県1市の教育委員会教育長に対し、被災地の復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との整合性を図るよう通知を行った。また、平成24年4月17日付け（24府財第62号）で同名の通知を発し、宮城・岩手・福島・仙台市の3県1市の教育委員会教育長に対し、迅速な埋蔵文化財の発掘調査を実施するための留意点を示した。

これらの通知を受け宮城県教育委員会は、県内市町村に対し、事業計画の早期把握による周知の埋蔵文化財包蔵地での開発事業の回避及び発掘調査に備えた埋蔵文化財包蔵地の早期の内容把握を求めるとともに、宮城県発掘調査基準の弾力的な運用、専門職員の確保や民間調査組織の導入を含めた調査体制の充実を図り、迅速な発掘調査に努め、設定した調査期間を厳守することなどの方針が示された。

気仙沼市教育委員会では、文化庁及び宮城県教育委員会の提示した方針に基づき宮城県教育委員会の協力を得ながら、迅速かつ適正な発掘調査を実施することとした。

※東日本大震災によって文化庁が発した埋蔵文化財関係の通知等

- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）（平成23年4月28日付け23府財第61号）
- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）（平成24年4月17日付け24府財第62号）
- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する平成23年4月28日付け文化庁次長通知（23府財第61号）について（通知）（平成25年2月18日24府財第691号）
- ・東日本大震災の復興に伴う防災集団移転促進事業における埋蔵文化財発掘調査の実施に関する取扱いについて（通知）（平成25年3月15日付け事務連絡）
- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する取扱いについて（回答）（平成25年3月15日付け事務連絡）

※東日本大震災によって宮城県教育委員会が発した埋蔵文化財関係の通知

- ・東日本大震災の復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて（通知）（平成23年6月3日文第268号）

②調査主体

東日本大震災復興交付金事業の基幹事業に位置付けられた防災集団移転事業や土地区画整理事業等の大規模な事業については、分布・試掘調査を宮城県教育委員会が行い、確認調査

及び本調査を気仙沼市教育委員会が行うこととした。同じく基幹事業に位置付けられている被災した個人住宅及び中小零細企業の店舗・工場等の再建に伴う発掘調査は、気仙沼市教育委員会が主体となり実施することとした。

気仙沼市教育委員会が主体となって行う調査については、調査内容・規模等必要に応じて随時宮城県教育委員会から専門職員の派遣を受けて実施することとした。

(2) 調査体制

気仙沼市では、震災復興計画が策定される中で、集団移転事業など多くの開発事業が、周知の埋蔵文化財泡蔵地へ影響を及ぼす可能性が高くなることが予想され、震災以前の文化財保護体制では、発掘調査を行う専門職員の不足が見込まれた。

そこで、平成 24 年 4 月以降、県外から自治法派遣職員の支援を受けたほか、専門職員（市任期付職員を含む）の採用を行うとともに、宮城県教育庁からの協力を受けながら体制の強化を図った。

各年度の本市調査体制は以下のとおりである。

〈平成 27 年度〉

【調査担当】 気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

生涯学習課長 菅原 京子

課長補佐 鈴木 實夫

主幹兼文化振興係長 輪野 寛治

調査担当：主幹 原田 享二（市任期付職員）・永濱 功治（鹿児島県派遣）・野崎 進（笛吹市派遣）、主査 石川 郁（市任期付職員）

【調査協力】 宮城県教育庁文化財保護課

堤英明（佐賀県派遣）・和田理啓（宮崎県派遣）・西村力

〈平成 28 年度〉

【調査担当】 気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

生涯学習課長 畠山 美雪

課長補佐 鈴木 實夫（9 月から技術補佐・市任期付職員）

主幹兼文化振興係長 輪野 寛治

調査担当：主幹 原田 享二（市任期付職員）・平木場 秀男（鹿児島県派遣）、
主査 石川 郁（市任期付職員）、技師 森 千可子

【調査協力】 宮城県教育庁文化財保護課

米田克彦（岡山県派遣）・西村力・古田和誠・佐藤涉

〈平成 29 年度〉

【調査担当】 気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

生涯学習課長 畠山 美雪

技術補佐 鈴木 實夫（市任期付職員）

主幹兼文化振興係長 幡野 寛治

調査担当：主幹 原田 享二（市任期付職員）・石川 郁（市任期付職員）・平木場 秀男（鹿児島県派遣）

技術主幹 須藤 好直（市任期付職員）・熊谷 満（市任期付職員・1月から）

主査 技師 森 千可子

【調査協力】宮城県教育庁文化財保護課

西村力・古田和誠

〈平成30年度〉

【調査担当】気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

生涯学習課長 熊谷 啓三

課長補佐兼文化振興係長 幡野 寛治

調査担当：技術補佐 鈴木 實夫（市任期付職員）

主幹 原田 享二（市任期付職員）・石川 郁（市任期付職員）・青木 昭和（富田林市派遣）

技術主幹 須藤 好直（市任期付職員）・熊谷 満（市任期付職員）

技師 森 千可子

【調査協力】宮城県教育庁文化財課

西村力・古田和誠

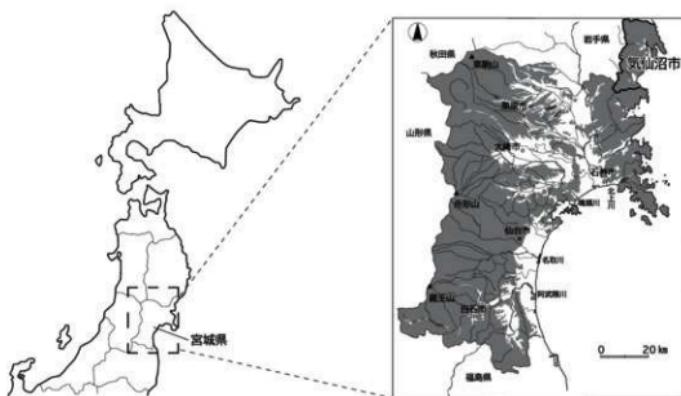
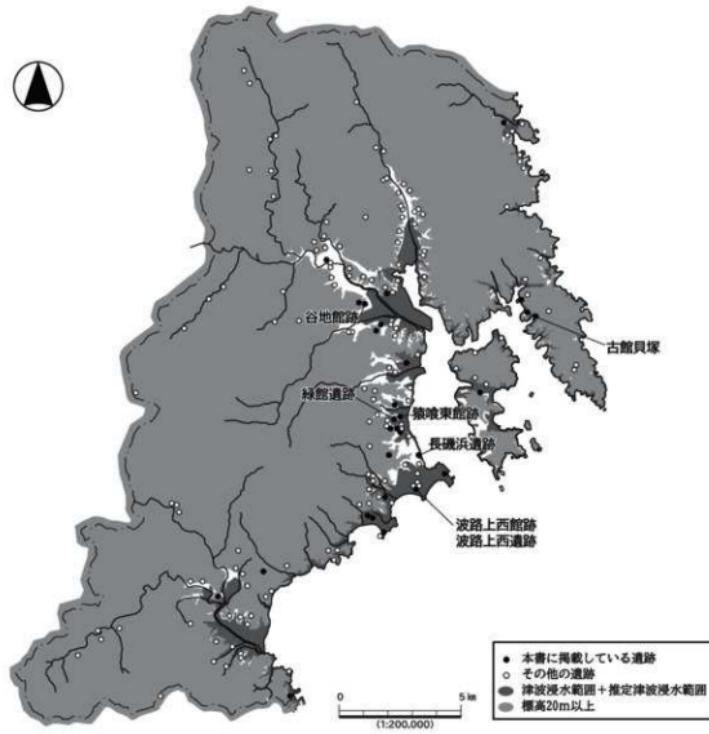
(3) 復興交付金事業にかかる予算措置

被災した個人住宅や中小零細企業の店舗・工場等の再建にかかる確認調査・本調査は、東日本大震災復興交付金事業の基幹事業である埋蔵文化財発掘調査事業に位置付けられている。また、これを除く防災集団移転促進事業や土地区画整理事業等の復興交付金基幹事業については、確認調査を埋蔵文化財発掘調査事業（国庫補助事業）で行い、本調査については当該事業の中に行うこととなっている。

埋蔵文化財発掘調査事業に該当する発掘調査費用については、国費の負担割合を75%に引き上げた上で、市が負担する25%は地方交付税措置により補てんされることになっており、財政負担の軽減が図られている。

2. 確認調査

気仙沼市では180か所以上の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、「遺跡」）が確認されているが、その多くが沖積地に隣接した丘陵や段丘上に所在する。第1図は気仙沼市の遺跡の分布と東



第1図 気仙沼市の位置と遺跡の分布

日本大震災の津波浸水域を示したものである。ほとんどの遺跡が津波の浸水を逃れていることがわかるが、逆の見方をするならば、被災者の個人住宅再建や高台移転等の候補地に多くの遺跡が分布しているということになる。

震災復興に係る遺跡の取り扱いは、現地保存を前提とし、やむを得ず本調査を実施する場合も、掘削範囲を必要最小限に留めている。

調査に際しては、復興事業にかかる調査の円滑化・迅速化を推進するため、宮城県発掘調査基準の弾力的な運用がなされた。

本市において、平成 27 年度から 30 年度に公共事業、個人住宅など復興交付金事業で実施した確認調査は第 1 表のとおりである。

3. 本発掘調査

平成 27 年度防災集団移転事業関連調査 2 件のほか、平成 28 年度の緑館遺跡（個人住宅）、と波路上西館跡・波路上西遺跡（道路復旧）、平成 29 年度の長磯浜遺跡（個人住宅）については本発掘調査を実施した。

いずれも確認調査で遺構や遺物包含層等が確認され、工事計画上、現地保存が不可能であつたため本発掘調査に移行したものである。調査は、掘削が及ぶ範囲に保護層を考慮した必要最小限の範囲を対象とした。

なお、平成 27 年度から 30 年度に実施した確認調査・本調査のうち、防災集団移転事業関連調査および道路復旧事業（本調査分）については、別途報告予定のため、本書では一覧表の掲載のみとしている。

4. 整理作業・報告書作成

本書に係る整理作業及び報告書作成作業は、主に平成 30 年度から令和元年度に気仙沼市文化財収納庫で行った。

整理作業・報告書作成の担当者は以下のとおりである。

平成30年度：青木 昭和・森 千可子・藤本 愛（市嘱託員）

令和元年度：青木 昭和・須藤 好直・藤本 愛（市嘱託員）

第1表 平成27年度～30年度 復興事業関連発掘調査一覧

29	所沢市道路 橋ヶ浜貝塚（3ヶ）	59463 WEL 施設中量・原野・野生物生息地 所沢市町村道	9.136.00	94.36	93.9.12.21	E3.12.22	石川・森 松木・柏谷・ 松木
	現今下轟跡	63001 F13 野原 本吉町方面下 個人住宅	930.00	11.10	E3.1.29	E3.1.29 地文土壌	石川・柏谷・ 松木
	所沢市道路	63042 野原 本吉町方面下 個人住宅	373.48	16.56	E3.2.5	E3.2.5 地文土壌	石川・柏谷・ 松木
	所沢市道路	59100 田 烟堀頭 個人住宅	355.89	105.2.3	E3.2.5	E3.2.5 地文土壌	石川・柏谷・ 松木
	所沢市道路	59100 田 烟堀頭 個人住宅	278.44	24.41	E3.2.6	E3.2.6 地文土壌	石川・柏谷・ 松木
29・30	所沢市道路（2ヶ）	59465 SAI 佐久庄地区 個人住宅	55.90	E3.3.12	E3.3.12	E3.3.12 地文土壌 ビタミン、土壌調 査	石川・ 松木
	谷地頭跡	59067 千子 宮坂 個人住宅	150.80	E3.5.31	E3.6.6	E3.6.6 地文土壌 ビタミン	石川・ 松木
	谷地頭跡	59067 千子 宮坂 個人住宅	209.34	16.49	E3.5.23	E3.5.23 地文土壌	石川・青木・ 松谷
	所沢市道路	59563 JIN 陣山・宮坂 個人住宅	259.29	13.62	E3.5.23	E3.5.23 地文土壌	石川・青木・ 松谷
30	所沢市道路	59563 JIN 陣山・宮坂 個人住宅	9.134.00	245.30	E3.9.27	E3.9.28 地文土壌 ビタミン	石川・ 松木
	所沢市道路	63010 ASA 本吉町芦谷様子 個人住宅	278.44	19.40	E3.1.9	E3.1.9 地文土壌	石川・青木
	所沢市道路	59100 田 烟堀頭 個人住宅	342.00	19.80	E3.1.2.8	E3.1.2.8 地文土壌	石川・青木

第2章 波路上西館跡・波路上西遺跡

遺跡名：波路上西館跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59036）

波路上西遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59097）

所在地：気仙沼市波路上杉の下地内

調査原因：漁業集落防災機能強化事業

（防災広場整備造成工事）

調査主体：気仙沼市教育委員会

調査期間：平成 27 年 9 月 7 日～平成 28 年 2 月 8 日

対象面積：4,500m²

調査面積：800.16m²

調査担当：鈴木貴夫、石川郁、永濱功治（鹿児島県派遣）



第2図 波路上西館跡・波路上西遺跡位置図

1. 調査に至る経過

波路上西館跡・波路上西遺跡はいずれも市内波路上杉の下にあり、海岸から約 200 m 内陸、標高約 10 ~ 12 m の微高地上に位置する。江戸時代に仙台藩が編纂した『封内風土記』には、「波路上邑（中略）古里一 不詳何人所居・・」（巻之十四）とある。また紫桃正隆は「（多賀城の）前進基地が気仙沼方面に伸び、いわゆる「府中城」と称されたのが三ヶ所あった」内の一つと記している（紫桃 1973）が実態は不明である。

これまで本格的な発掘調査は実施されていないが、平成 26 年度に農山漁村地域復興基盤総合整備事業に伴う確認調査で、縄文時代早期の土器を含む炉跡、古代の竪穴建物跡等が発見されている（気仙沼市教委 2019）。

今回の調査は、漁業集落防災機能強化事業の一環として防災広場を整備するための造成工事に伴い実施したものである。

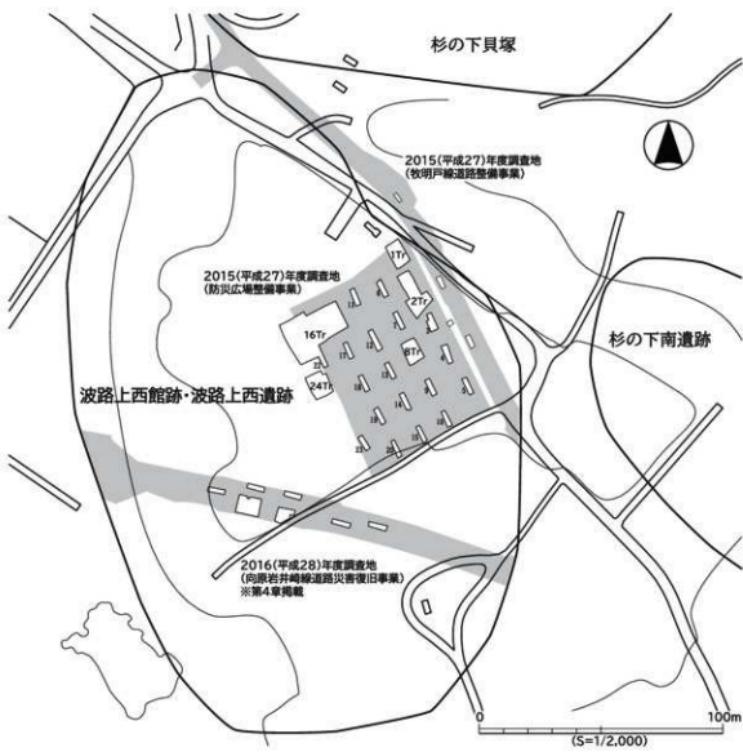
2. 調査成果

調査対象地は波路上西館跡および波路上西遺跡の南端付近に位置する。東日本大震災以前は、畑や民家が点在していたが、津波により甚大な被害を受け、調査前は空地であった。

確認調査は、造成予定地 23か所にトレンド（以下、図表中は「Tr」と表す。）を設定

第2表 調査トレンド一覧

トレンド	面積	検出遺構	特記事項
1Tr	66.041	SK・SD・P	磨製石斧、土師器
2Tr	120.066	SK・SB・SD・P	染付片
3Tr	20.620	P	
4Tr	18.395	-	
5Tr	14.720	-	
6Tr	15.221	-	
7Tr	14.883	-	
8Tr	60.975	SD・P	
9Tr	15.022	-	
10Tr	13.017	-	
11Tr	15.072	-	
12Tr	19.757	-	
13Tr	13.576	-	
14Tr	15.148	SK・P	時期不明陶片状遺構
15Tr	12.395	-	縄文土器、土師器
16Tr	204.150	SI・SA・P	縄文土器、土師器（旧21Tr含む）
17Tr	12.660	P	
18Tr	13.522	-	
19Tr	14.603	-	
20Tr	12.826	-	
22Tr	12.177	-	
23Tr	13.109	-	
24Tr	82.209	SK・ST	縄文土器、鉄鋤、鉄釘、銭貨、人骨
計	800.164		



第3図 波路上西館跡・波路上西遺跡調査地

して実施した。

工事は造成範囲の南半が盛土造成、北半は切土造成であるが、切土部分で遺構が検出した1・2・8・16の各トレンチでは範囲の一部を拡張し遺構の分布の把握に努めた。さらに、隣接する道路の整備に関連して、造成地の南東に接する地点に24トレンチ（調査時においては南拡張区と呼称）を設定した。これら各トレンチの規模は第2表の通りである。

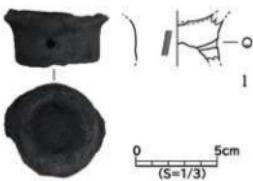
各トレンチで検出した遺構は半截し土層の状況について観察を行い、そのうち主なものを図表に示した。なお、遺構番号はトレンチ毎に検出順に通し番号を付して表している。以下、トレンチごとに調査成果を記す。

また、同時期に実施した市道牧明戸線道路整備事業にかかる確認調査では、数基のピットを検出したのみで、遺物は出土しなかった。

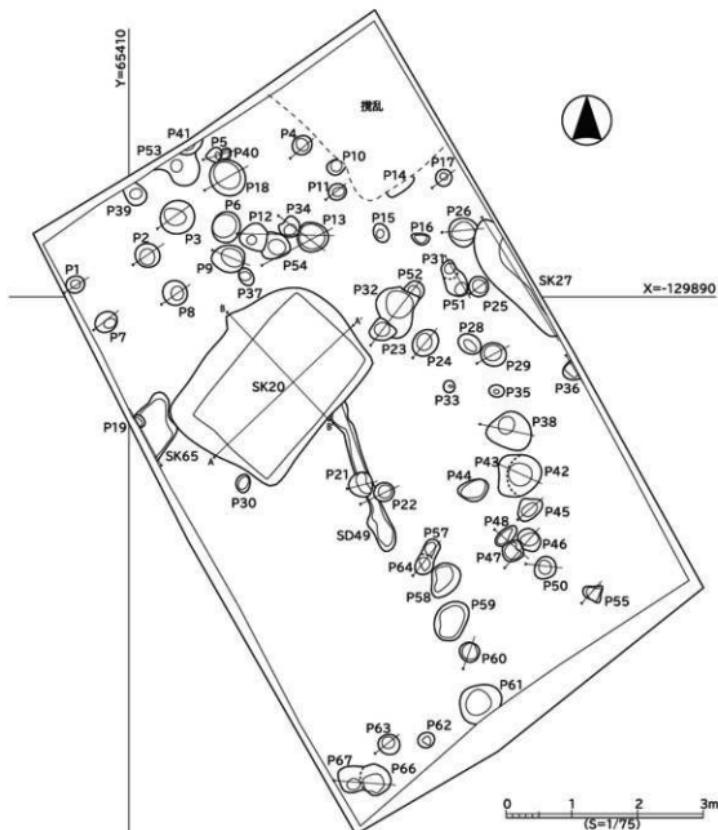
(1) 1トレンチ

1トレンチで検出した遺構は65基あり、うち土坑3基(SK20・27・65)、溝1条(SD49)のほかはすべてピットであった。なお、遺構番号54・56は欠番である(第5図)。遺構断面とそれぞれの層序については第6図・第7図に示した通りである。

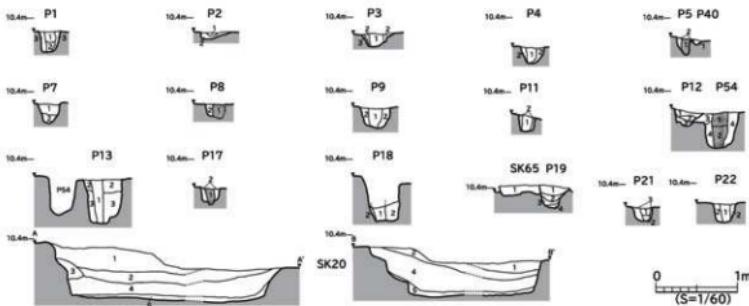
遺物はP8から土師器高环片1点が出土している(第4図)。



第4図 1トレンチ出土遺物



第5図 波路上西館跡・波路上西遺跡1トレンチ遺構平面図

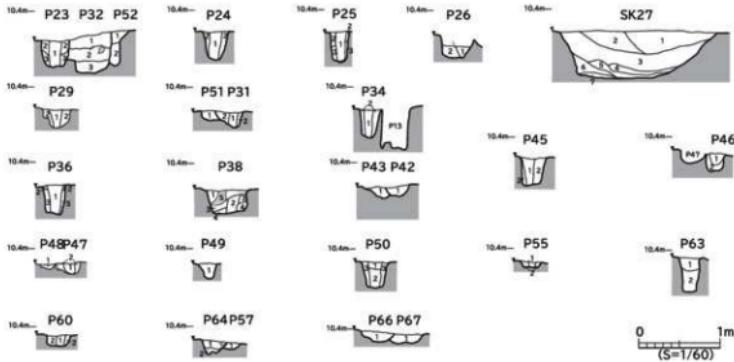


造構No	層付No	土色記号	土色	土質	縫り	黏性	土層注記
P1	1	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	強	明黄色(10787/6)色粒少量含む
	2	10784/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	強	
	3	10785/3	にぶい灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄色(10787/6)色粒少量含む
P2	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	明黄色(10787/6)色粒少量含む
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄色(10787/6)色粒少量含む
P3	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	炭化物・あま岩少量含む
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩多量に含む
P4	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	炭化物・あま岩少量含む
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩多量に含む
P5	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	燒(10787/6)色粘土粒を少量含む(柱痕跡)
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	やや弱	明黄色(10787/6)色粘土粒多量に含む
P40	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	あり	やや弱	明黄色(10787/6)色粘土粒多量に含む
P7	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄色(10787/6)色粘土粒少量含む
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄色(10787/6)色粘土粒少量含む
P8	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを少量含む
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロック多量に含む
P9	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを少量含む
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロック・粘土粒多量、炭化物を少量含む
P11	1	10784/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを少量含む
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロック多量に含む
P12	1	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・あま岩少量含む
	2	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒多量、あま岩少量含む
	3	10784/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒多量に含む
P54	1	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを少量含む(柱痕跡)
	2	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを少量含む(柱痕跡)
	3	10784/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒を少量含む
P13	4	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを少量含む
	1	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・中~3cmの角礫を少量含む
P17	2	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒多量に含む
	3	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・中~5cmの角礫を少量含む
	4	10785/1	灰褐色	粘質シルト	強	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・炭化物少量含む
P18	1	10785/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒多量に含む
	2	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを多量に含む
P19	1	10786/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロック・あま岩多量に含む
	2	10786/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・炭化物を少量含む
	3	10785/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・炭化物を少量含む
	4	10785/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒を少量含む
SK65	1	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・炭化物を少量、あま岩を多量に含む
	2	10786/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロック・あま岩を多量に含む
	3	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	やや強	黄褐色(10788/6)色粘土ブロックを多量、0.3~5cmの小礫を少量含む
	4	10785/1	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒少量含む
	5	10787/4	にぶい灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロック・あま岩を多量に含む
P21	1	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒多量に含む
	2	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒多量に含む
	3	10785/1	灰褐色	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒少量含む
P22	1	10785/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10788/6)色粘土粒・炭化物を少量含む
	2	10785/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄褐色(10788/6)色粘土ブロック少量含む

第6図 波路上西館跡・波路上西遺跡1トレンチ造構断面図(1)

(2) 2トレンチ

2トレンチで検出した遺構は80基あり、うち土坑1基（SK70）、溝2条（SD9・76）のほかはすべてピットであった（第10図～第12図）。

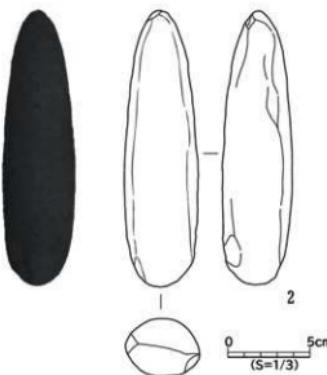


遺構No	覆土No	土色記号	土色	土質	縹り	粘性	土層記記
P29	1	10YR8/1	黄橙	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を少量含む
	2	7.5YR8/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を多量に含む
P31	1	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・炭化物を少量含む
	2	10YR5/2	灰黃褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を少量含む
P51	1	10YR5/3	にじみ・黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を多量に含む
	2	10YR5/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を多量に含む
P34	1	10YR5/3	にじみ・黄褐色	粘質シルト	あり	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・炭化物を多量に含む
	2	10YR5/3	にじみ・黄褐色	粘質シルト	あり	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・炭化物を少量含む
P36	1	10YR8/4	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・炭化物を少量含む
	2	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を多量に含む
	3	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒多量、中3~5cmの角礫を少量含む
P38	1	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を多量含む、礫を含む
	2	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	やや弱	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を少量含む
	3	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を多量に含む
	4	10YR8/4	褐灰	粘質シルト	やや弱	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を少量含む
P42	1	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を少量含む
P43	1	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を多量に含む
P45	1	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	あり	強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を少量含む
P46	1	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を多量に含む
	2	10YR8/3	灰黄褐色	粘質シルト	あり	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩を少量含む
P47	1	10YR8/4	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を少量含む
P48	1	10YR8/2	黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を多量に含む
P49	1	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	あり	やや弱	黄橙(10YR8/6)色粘土粒多量、中2cmの小礫を少量含む
P50	1	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒多量、あま岩少量含む
	2	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒少量含む
	3	10YR8/4	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒多量、あま岩少量含む
P55	1	10YR8/1	褐灰	粘質シルト	あり	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・炭化物を少量含む
P60	2	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄橙(10YR8/6)色粘土粒を少量含む
	1	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒多量、あま岩少量含む
P66	1	10YR8/3	にじみ・黄褐色	粘質シルト	あり	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒多量・あま岩少量含む
P67	1	10YR8/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	やや強	黄橙(10YR8/6)色粘土粒・あま岩多量に含む

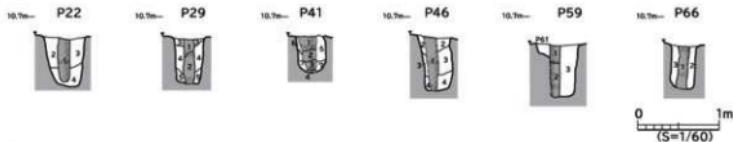
第7図 波路上西館跡・波路上西遺跡1トレンチ遺構断面図（2）

検出したピットのうち、P 22・29・41・46・59・66 は比較的平面形状が似ており、断面でも柱痕跡が検出されたことから、2間×3間以上の掘立柱建物跡（S B 1）の柱穴と考えられる（第9図）。柱間は 1.8～2.0 m を測る。

P 39 では、底から扁平な礫が敷かれたような状況で検出されたが、根石と考えられる。遺物は P 27 で染付の小片、P 33 から磨製石斧状の礫が出土した（第8図・写真4-2）。

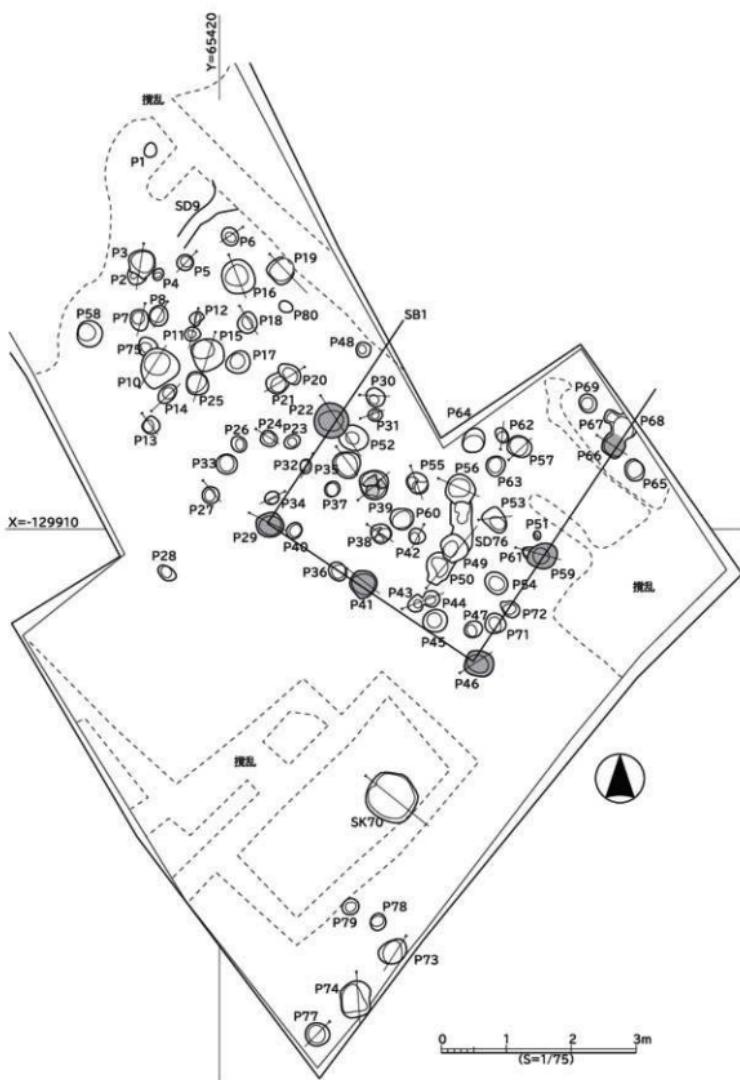


第8図 2トレンチ出土遺物

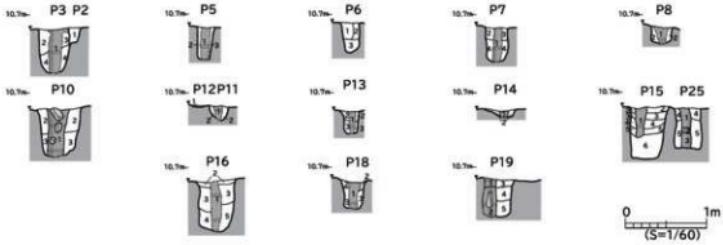


遺跡No	層No	土色記号	土色	土質	縁り	粘性	土層性記	
							1	2
P22	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	なし	あり	にぶい黄褐色 (10YR7/4) の礫を含む (柱痕跡)	
	2	10YR4/1	褐灰色	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色 (10YR6/8) の礫を含む	
	3	10YR7/6	明黄褐色	粘質シルト	あり	あり	灰黄褐色 (10YR4/2) 土・明黄褐色 (10YR7/6) の礫を含む	
	4	10YR6/6	明黄褐色	粘質シルト				
P29	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	なし	あり	黄褐色 (10YR7/8) の礫を含む (柱痕跡)	
	2	10YR4/1	褐灰色	粘質シルト	あり	あり	灰白色 (10YR8/1) の岩粒を含む (柱痕跡)	
	3	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	圓	あり	明黄褐色 (10YR7/6) の礫を多量に含む	
	4	10YR7/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	強	あり	灰白色 (10YR8/1) の岩粒を含む	
	5	10YR5/2	灰黄褐色	粘質シルト	弱	あり	灰白色 (10YR8/1) の礫を含む	
P41	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	褐色 (7.5YR7/3) - 黄褐色 (10YR7/8) の岩粒を少量化 (柱痕跡)	
	2	10YR6/6	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色 (10YR7/8) の岩粒を含む (柱痕跡)	
	3	10YR6/4	明黄褐色	粘質シルト	あり	あり	褐色 (7.5YR6/3) の礫を多量に含む (柱痕跡)	
	4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色 (10YR7/8) の岩粒を含む (柱痕跡)	
P46	5	7.5YR6/8	褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色 (10YR7/8) の礫を含む	
	6	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	灰白色 (10YR8/2) - 黄褐色 (10YR7/8) の礫を少量化 (柱痕跡)	
	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色 (10YR7/8) の岩粒を少量化含む	
	8	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	なし	あり	黄褐色 (10YR7/8) の岩粒を多量含む (柱痕跡)	
P59	9	10YR6/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色 (10YR7/8) - 明黄褐色 (10YR6/8) の礫を含む	
	10	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色 (10YR7/8) の礫を多量に含む (柱痕跡)	
	11	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	圓	あり	黄褐色 (10YR7/8) の礫を少量化含む	
	12	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色 (10YR7/6) の岩粒を少量化含む (柱痕跡)	
P66	13	10YR5/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色 (10YR7/6) の礫を含む	
	14	10YR7/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	約10cm長の河原石を含む	
	15	10YR6/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐色 (10YR7/8) - 明黄褐色 (10YR6/8) の地山塊を含む	

第9図 波路上西館跡・波路上西遺跡 2トレンチ S B 1各ピット断面図

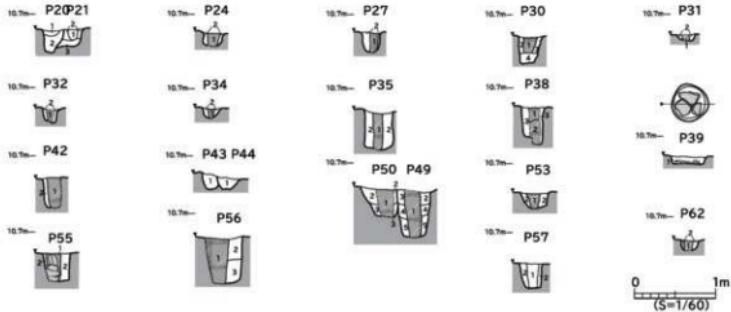


第10図 波路上西館跡・波路上西遺跡2トレンチ遺構平面図



透視No	複土No	土色記号	土色	土質	縫り	黏性	土層記	
							上	下
P2	1	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR7/8)の岩粒を多く含む	
	1	10YR4/2	褐灰	粘質シルト	なし	あり	黄褐色(10YR7/8)の岩粒と長さ2cm程の岩を含む(柱痕跡)	
	2	10YR8/8	黄橙	粘質シルト	あり	あり	あま岩を多量に含む	
	3	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR7/8)の岩粒と3cm程の岩を含む	
P3	4	10YR4/2	にぶい黄褐	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10YR7/8)の岩粒3~5cmの岩を多量に含む	
	1	10YR4/2	褐灰	粘質シルト	なし	あり	灰白(10YR8/2)の岩粒少量含む(柱痕跡)	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR8/8)の岩粒を多量含む	
	3	10YR6/2	黄橙	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR8/8)の岩粒・にぶい黄褐色(10YR4/3)色粘質土を少量含む	
P5	4	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒少量含む	
	2	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)色岩粒を含む	
	3	10YR5/2	黒褐	粘質シルト	なし	あり	あま岩を少量含む	
	1	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	弱	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を含む(柱痕跡)	
P7	2	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	なし	弱	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を少量含む	
	3	にぶい黄褐	粘質シルト	弱	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒と多量に含む		
	4	10YR4/4	褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を少量含む	
	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	なし	弱	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒と少量含む(柱痕跡)	
P8	2	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色(10YR8/6)色中5cm程の岩と岩粒を多量に含む	
	1	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	なし	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を含む(柱痕跡)	
	3	10YR6/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩を含む	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR5/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
P10	5	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	なし	弱	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を含む	
	3	10YR6/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を含む	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を含む(柱痕跡)	
P11	2	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む	
	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を含む(柱痕跡)	
	3	10YR6/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を少量含む(柱痕跡)	
	4	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	弱	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む	
P12	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を少量含む	
	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	明黄褐色(10YR8/6)色の岩粒を少量含む(柱痕跡)	
	2	10YR5/6	黄橙	粘質シルト	あり	あり	浅黄褐色(10YR7/6)の岩粒と2cm程の岩を多量に含む	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	浅黄褐色(10YR7/6)の岩粒を含む	
P13	4	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	浅黄褐色(10YR7/6)の岩粒と3cm程の岩を多量に含む(柱痕跡)	
	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	2	10YR4/2	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む	
	3	10YR6/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
P14	4	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	2	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	弱	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	1	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	弱	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を少量含む(柱痕跡)	
	6	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色(10YR8/6)色中3~6cmの岩を多量に含む(柱痕跡)	
P15	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	2	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	なし	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	3	10YR6/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色(10YR8/6)色中3~6cmの岩を多量に含む(柱痕跡)	
	4	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
P25	5	10YR4/6	灰黄褐	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	6	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	なし	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩を多量に含む(柱痕跡)	
	1	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	なし	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩を多量に含む(柱痕跡)	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	なし	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩を多量に含む(柱痕跡)	
P25	3	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	なし	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩を多量に含む(柱痕跡)	
	4	10YR7/6	明黄褐	粘質シルト	あり	弱	白(10YR8/2)の岩粒を含む	
	5	10YR5/4	にぶい黄褐	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10YR8/6)色中3cm程の岩を含む	
	6	10YR4/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR7/8)色中3~10cmの岩を多量に含む	
P16	1	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR5/6)の岩粒を含む(柱痕跡)	
	2	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を含む	
	3	10YR7/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩を多量に含む	
	4	10YR5/3	にぶい黄褐	粘質シルト	あり	あり	にぶい黄褐色(10YR8/6)色中1~3cmの岩を多量に含む	
P18	5	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	にぶい黄褐色(10YR8/6)色の岩を少量含む	
	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10YR8/6)色中3cm程の岩を含む(柱痕跡)	
	2	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	弱	あり	黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む(柱痕跡)	
	3	10YR5/4	明黄褐	粘質シルト	弱	あり	地山ブロックを含む	
P19	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	明黄褐色(10YR8/6)色中3cm程の岩を含む(柱痕跡)	
	2	10YR5/6	明黄褐	粘質シルト	なし	あり	長さ20cmの岩を含む(柱痕跡)	
	3	10YR5/6	褐	粘質シルト	あり	弱	褐灰(10YR4/1)色土・灰白(10YR8/1)色の岩粒を少量含む	
	4	10YR6/6	黄褐	粘質シルト	あり	弱	明黄褐色(10YR8/6)の岩粒を多量に含む	
	5	10YR5/6	褐	粘質シルト	あり	あり	白(10YR8/1)色中3~5cmの岩を含む	

第11図 波路上西館跡・波路上西遺跡2トレンチ構造断面図（1）



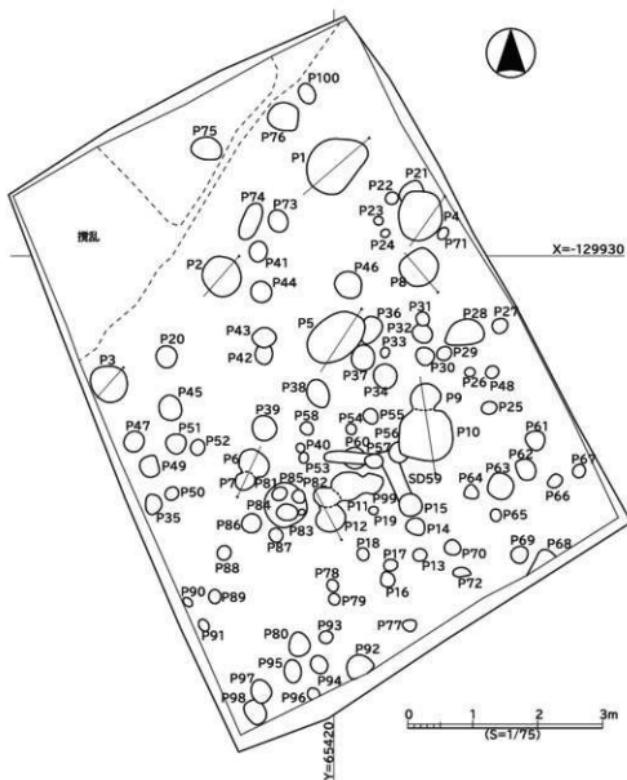
連続番号	覆土番号	土色記号	土色	土質	繊り	粘性	土層性記	
							上層	下層
P20	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	褐灰(10YR4/1)色土少量、明黄褐(10YR5/6)色岩を含む	
	2	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR5/6)色中1cmの岩を含む	
P21	1	107R4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	黄褐(10YR5/8)色の岩を含む	
	2	107R4/6	明黄褐	粘質シルト	あり	弱	黄褐(10YR5/6)色の岩を少量化	
P24	1	107R4/1	灰褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩を含む(柱痕跡)	
	2	107R4/2	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色中1cm程の岩を含む	
P27	1	107R4/1	灰褐	粘質シルト	弱	あり	黄褐(10YR7/8)色中2cmの岩を含む(柱痕跡)	
	2	107R4/2	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	灰白(10YR8/1)色、黄褐(10YR7/8)色の岩粒を含む	
P30	1	107R4/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩を多量に含む(柱痕跡)	
	2	107R4/2	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	褐灰(10YR4/1)色・明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を少量化	
	3	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR6/6)色・灰白(10YR8/1)色の岩粒を少量化	
	4	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	なし	あり	明黄褐(10YR7/6)色中5cmの岩を含む	
P31	1	107R4/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	明化物・黄褐(10YR8/6)色の岩粒を含む(柱痕跡)	
	2	107R7/6	明黄褐	粘質シルト	なし	あり	明化物・灰白(10YR8/1)色の岩粒を少量化	
P32	1	107R4/2	灰褐	粘質シルト	あり	あり	灰白(10YR8/1)色・黄褐(10YR7/8)色の岩粒を少量化含む(柱痕跡)	
	2	107R4/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	灰白色(10YR8/1)色の岩粒を含む	
P34	1	107R4/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/6)色中4cm程の岩を含む(柱痕跡)	
	2	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	灰白(10YR8/1)色の岩粒を含む	
P35	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	なし	あり	黄褐(10YR7/6)色中2cmの岩を含む(柱痕跡)	
	2	107R7/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	灰白(10YR8/1)色中2~3cmの岩を含む	
P38	1	107R4/1	褐灰	粘質シルト	やあり	あり	黄褐(10YR7/6)色中2cmの岩を含む(柱痕跡)	
	2	107R4/2	灰褐	粘質シルト	やあり	あり	黄褐(10YR7/6)色の岩粒を含む(柱痕跡)	
P39	1	107R5/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色中1~3cmの岩を多く含む。底に扁平な石がある	
	2	107R4/2	灰褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩粒を含む(柱痕跡)	
P42	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩粒を含む(柱痕跡)	
	2	107R5/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩粒を含む	
P43	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩粒を少量化	
	2	107R4/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩粒を多量に含む	
P44	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩粒を含む	
	2	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	なし	あり	明黄褐(10YR8/8)色の岩粒を含む(柱痕跡)	
	3	107R5/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	浅黄褐(10YR8/4)色中5cmの岩を含む	
	4	107R4/2	灰褐	粘質シルト	あり	あり	浅黄褐(10YR8/4)色の岩粒を含む	
	5	107R4/1	褐灰	粘質シルト	弱	あり	浅黄褐(10YR8/4)色中5cmの岩を含む	
P50	1	107R4/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色の塊、黄褐(10YR7/8)色・灰白(10YR8/1)色の岩粒を含む(柱痕跡)	
	2	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色・灰白(10YR8/1)色の岩粒を含む	
P53	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩を含む	
	2	107R4/1	褐灰	粘質シルト	ややあり	あり	黄褐(10YR7/8)色中0.5~1cmの岩を含む(柱痕跡)	
P54	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩を含む	
	2	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	なし	あり	黄褐(10YR7/8)色の岩を含む	
P55	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	長さ18cmの石が横まれている(柱痕跡)	
	2	7.5TR6/6	褐	粘質シルト	あり	あり	褐(7.5TR6/6)色中2~3cmの岩を含む	
P56	1	107R4/3	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/8)色中2~3cmの岩を含む	
	2	107R5/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR8/6)色の岩を多量に含む	
	3	107R6/5	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR6/8)色中3~5cmの岩を含む	
P57	1	107R4/1	褐灰	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR7/8)色中2~3cmの岩を含む(柱痕跡)	
	2	107R6/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	黄褐(10YR8/6)色中1~2cmの岩を含む	
P62	1	107R4/2	灰褐	粘質シルト	あり	あり	明化物・明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を含む(柱痕跡)	
	2	107R5/4	にじみ黄褐色	粘質シルト	あり	あり	灰白(10YR8/2)色・明黄褐(7.5TR5/6)の岩粒を少量化	

第12図 波路上西館跡・波路上西遺跡2トレンチ遺構断面図（2）

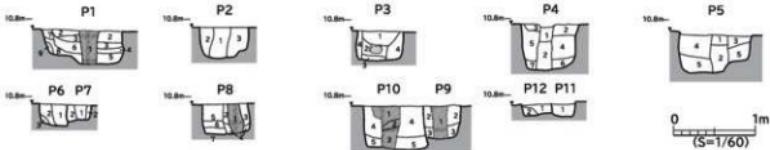
(3) 8トレンチ

8トレンチは大半が盛土造成の予定であることから、調査は基本的には遺構検出まで留めたが、一部の遺構について半裁して土層の確認を行っている。

P1・8・9・10で柱痕跡を検出し、他のピットでも柱痕跡と推定される土層を認めたが、掘立柱建物を構成するかどうかは不明である（第13図・第14図）。遺構に伴う遺物は出土していない。



第13図 波路上西館跡・波路上西遺跡8トレンチ遺構平面図



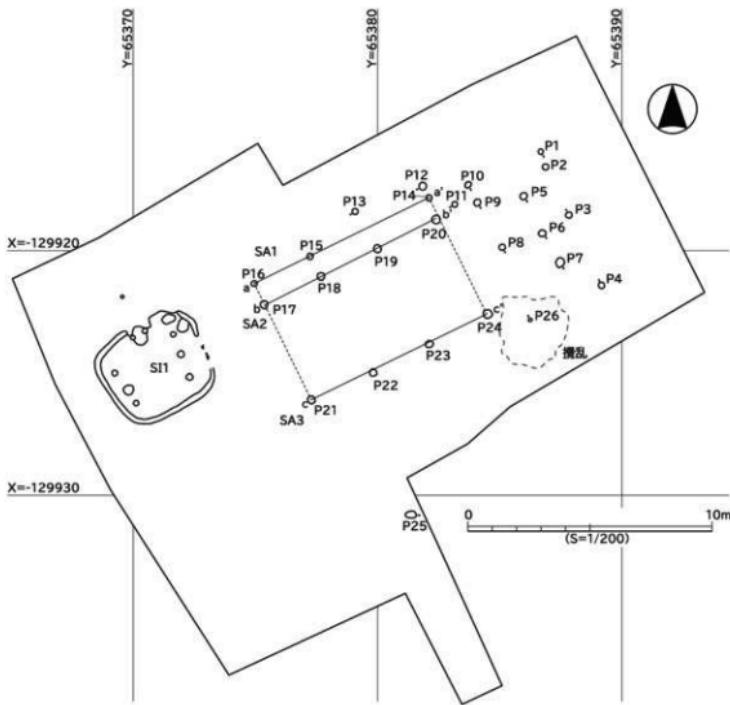
透視No	覆土名	土色	土質	縫り	粘性	土層記述
P1	1. 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	強	あり	にぶい・壊(7SYR7/4)色の岩を含む(柱崩跡)	
	2 10YR7/6 明黄褐	粘質シルト	強	あり	灰白(7SYR4/1)色岩・壊(7SYR7/6)色の岩を含む	
	3 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を含む	
	4 10YR3/3 にぶい・黄褐	粘質シルト	強	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒少量・壊(7SYR7/6)色岩を含む	
	5 10YR2/2 灰灰	粘質シルト	強	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒少量・灰白(7SYR8/1)色岩を含む	
	6 10YR3/4 にぶい・黄褐	粘質シルト	強	あり	壊(5YR7/6)色・明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を含む	
	7 5YR7/6 壊	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を含む	
	8 10YR4/4 にぶい・黄褐	粘質シルト	あり	あり	壊(5YR7/6)色・灰白(7SYR8/1)色の岩粒を少量含む	
	9 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	弱	あり	灰白(7SYR4/1)色の岩粒を少量含む	
P2	1 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	あり	あり	壊(5YR7/6)色の岩粒・灰白(7SYR4/1)・明黄褐(10YR7/6)色中~5cmの岩を含む	
	2 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	強	あり	色白(7SYR8/1)色中~5cm・明黄褐(10YR7/6)色岩粒を含む	
	3 7SYR4/2 灰灰	粘質シルト	強	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を多量に含む	
P3	1 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	強	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色の岩を多量に含む	
	2 7SYR3/3 喜褐	粘質シルト	あり	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色の岩を少量・15cmの石を含む	
	3 7SYR4/2 灰灰	粘質シルト	あり	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色の岩を少量含む	
	4 7SYR3/3 喜褐	粘質シルト	強	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色中~15cmの岩を含む	
P4	1 7SYR4/2 滅灰	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(7SYR8/1)色の岩粒を含む	
	2 7SYR5/4 にぶい・褐	粘質シルト	弱	あり	明黄褐(7SYR8/1)色の岩少量・灰白(7SYR8/1)色の岩を多量含む	
	3 7SYR2/1 灰灰	粘質シルト	強	あり	灰白(7SYR8/1)色岩を多量・明黄褐(7SYR8/1)色の岩を多量含む	
P5	1 7SYR5/6 明褐	粘質シルト	強	あり	明黄褐(7SYR8/1)色の岩を多量・明黄褐(10YR6/8)色中~5cmの岩を含む	
	2 7SYR5/6 明赤	粘質シルト	強	あり	明赤褐(5YR5/8)色の岩を多量に含む	
	3 7SYR4/2 灰灰	粘質シルト	強	あり	明黄褐(7SYR8/1)色の岩粒を少量含む	
P6	1 7SYR5/2 灰灰	粘質シルト	あり	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色・明赤褐(5YR5/8)色の岩を含む	
	2 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	弱	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色・明赤褐(5YR5/8)色の岩を含む	
	3 7SYR5/3 にぶい・褐	粘質シルト	強	あり	明赤褐(5YR5/8)色中~5cmの岩を多量・灰白(7SYR8/1)色岩を少量含む	
P7	1 7SYR5/6 明赤	粘質シルト	強	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色の岩粒を多量に含む	
	2 10YR2/1 黒褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を少量含む	
	3 10YR2/2 灰灰	粘質シルト	強	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を多量に含む	
P8	1 7SYR4/1 黑褐	粘質シルト	強	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色・にぶい・壊(7SYR5/4)色の岩粒を含む(柱崩跡)	
	2 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	あり	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色・にぶい・壊(7SYR5/4)色の岩粒を少量含む	
	3 7SYR3/1 黑褐	粘質シルト	強	あり	にぶい・壊(10YR7/4)色の中に壊(7SYR4/1)色土を少量含む	
P9	1 10YR2/1 黑褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を少量含む	
	2 10YR2/2 灰灰	粘質シルト	強	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を多量に含む	
	3 7SYR4/2 黑褐	粘質シルト	強	あり	にぶい・壊(7SYR5/4)色の岩粒を少量含む	
P10	1 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色中~2cmの岩を含む(柱崩跡)	
	2 7SYR4/4 壊	粘質シルト	あり	あり	明赤褐(5YR5/8)色の岩粒を多量に含む(柱崩跡)	
	3 7SYR3/3 喜褐	粘質シルト	ややあ	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を少量含む(柱崩跡)	
P11	4 7SYR4/2 灰灰	粘質シルト	強	あり	明黄褐(7SYR7/6)色の岩粒を多量に含む	
	5 7SYR5/4 にぶい・褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を少量含む	
	6 7SYR4/1 滅灰	粘質シルト	強	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を含む	
P12	7 7SYR4/2 明黄褐	粘質シルト	強	あり	明黄褐(10YR7/6)色の岩粒を多量に含む	
	2 10YR6/6 明黄褐	粘質シルト	弱	あり	明黄褐(10YR7/6)色土を少量含む	

第14図 波路上西館跡・波路上西遺跡8トレンチ遺構断面図

(4) 16 トレンチ

調査当初 16 トレンチで柵列状に並ぶピット群を検出したことから隣接する 21 トレンチを含めて拡張したため、本書ではこの 2 つを併せて 16 トレンチとして報告する。

このトレンチでは、竪穴住居跡（S I 1）1 棟のほかピット 25 基を検出した。ピットの一部は柵列を構成すると考えられる（第 15 図）。

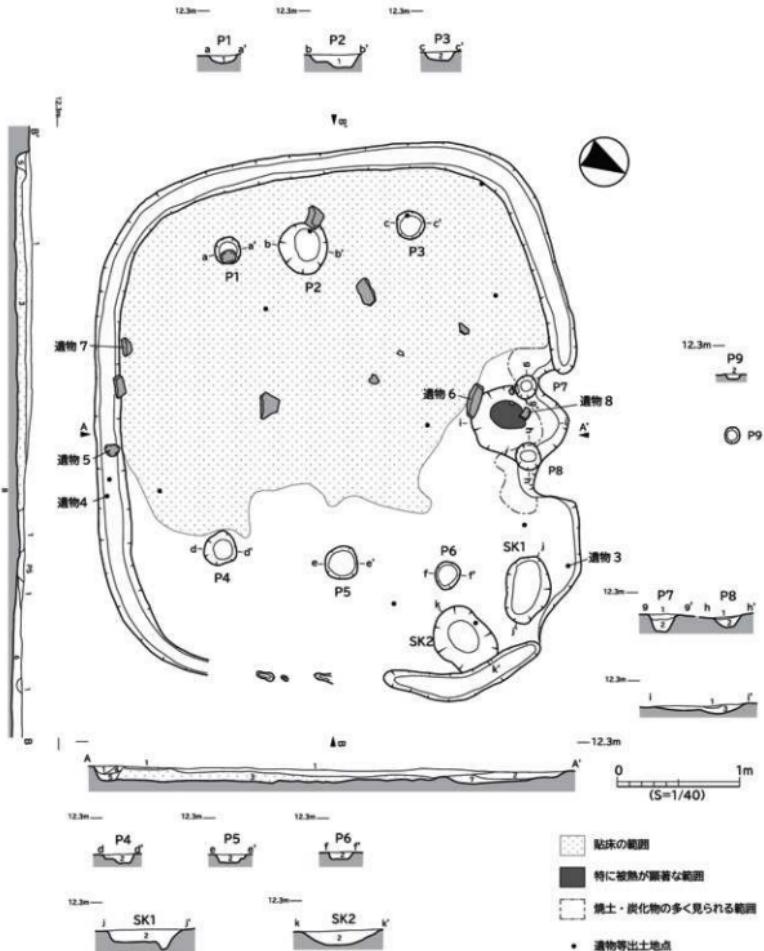


第 15 図 波路上西館跡・波路上西遺跡 16 トレンチ遺構平面図

竪穴建物跡（S I 1）

竪穴建物跡内およびその周辺で検出した遺構には、整理作業の都合上、トレンチ内とは別に遺構番号を付している（S K 1・2、P 1～9）。

S I 1 は、東西 4.4 m、南北 3.9 m で北壁にカマドを設けている。床の西半に締まった橙色の土が残り、貼床の痕跡と考えられる。床面でピット 6 基（P 1～6）が検出されているが、いずれも単一層で検出面からの深さは 10cm 前後であり、竪穴建物跡の柱穴であるかどうかは



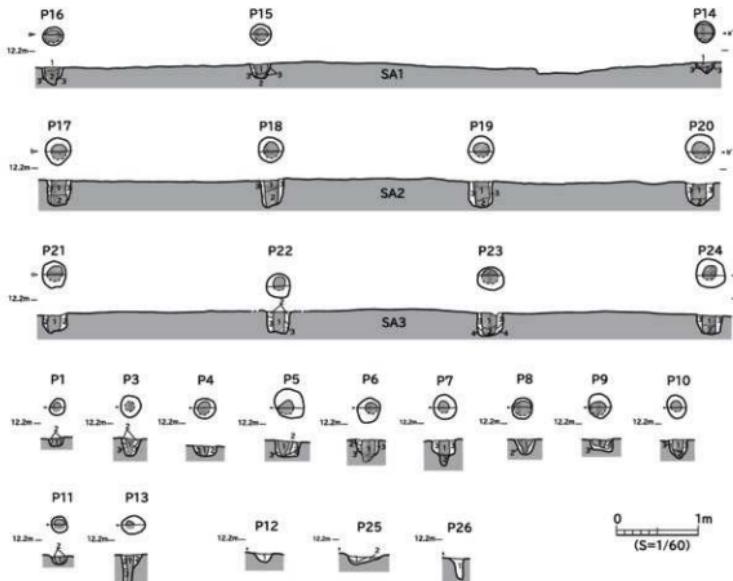
- ピット・土坑断面 (P7・8を除く)
- 1: 黒褐 (7.5YR3/2) 色土 しまり弱、粘性少しあり
 - 2: 黒褐 (7.5YR2/2) 色土 しまり弱、粘性少しあり
 - SK1・2は淡黄橙 (7.5YR4/4) 色小礫を少し含む
- カマド跡 (P7・8含む) 断面
- 1: 明褐 (7.5YR5/6) 色土 しまり強
 - 赤 (10YR5/8) 色の燒土・鉱物含む
 - 2: 喀褐 (7.5YR3/3) 色土 しまり強
 - 3: 赤褐 (10YR6/8) 色土 しまりあり、粘性あり (燒土)

- 壁床の範囲
- 特に被熱が顕著な範囲
- 燒土・炭化物の多く見られる範囲
- 遺物等出土地点
- 壁床 (SI1) 断面
- 1: 喀褐 (7.5YR3/4) 色土 しまり弱、粘性あり
 - 2: 明赤褐 (2.5YR5/8) 色土 しまり強、粘性あり 燃土が混じる
 - 3: 棕 (7.5YR7/6) 色土 しまり弱、粘性あり (壁床)
 - 4: 棕 (7.5YR4/6) 色土 しまり弱、粘性少ない (地山小ブロック含む)
 - 5: 棕 (7.5YR4/4) 色土 しまりなし、粘性少ない (ローム質)
 - 6: 棕 (7.5YR6/6) 色土 しまりなし、粘性少ない (ローム質)
 - 7: 棕 (7.5YR6/6) 色土 しまり強、粘性少ない (ローム質)

第16図 波路上西館跡・波路上西遺跡 16トレンチ S+1遺構平面・断面図

判然としない。

また、2基（SK1・2）の土坑を検出しているが、深さはいずれも約10cmで、埋土も均一であった。カマドを挟んで東西に径約20cmのピット（P7・8）があり、その周辺には焼土・炭化物が多く見られた。また、カマドの焚口は一段低くなつており被熱が顯著であった。また、カマドを通る南北中軸線上の1.3m北側に径約12cmのピット（P9）があるが、S11との関連性は不明である（第16図）。周溝は10cm前後の深さでほぼ一周しているが一条のみであり、建て替えが行われた形跡はなく、長期継続したものではないと考えられる。



第17図 波路上西館跡・波路上西遺跡 16トレンチ柵列・ピット平面・断面図

柵列（SA1～3）

SA1はP14からP16まで3基のピットで構成する。P14とP15の間が離れるが、規模としてはSA2・SA3と同程度である。軸線は真北から東に約62度振れている。SA2は、P17からP20まで4基のピットで構成し、柱間は約2.6mである。方角はSA1とほぼ同じである。SA3は、P21からP24まで4基のピットで構成し、SA1・2と並行し、柱間も同じく約2.6mである。

SA1からSA3で1棟の掘立柱建物跡を構成するととも考えられるが、SA2・SA3の

第3表 波路上西館跡・波路上西遺跡 16トレンチ柵列・ピット土層

遺構No	覆土No	土色記号	土色	土質	繰り	粘性	土層注記	
P1	1	10Y82/1	黒	粘質シルト				
	2	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒・怪1cm小礫を少量含む	
P3	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	あり		
	2	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	地山粒を多く含む	
P4	3	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	地山粒・怪1cm小礫を少量含む	
	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒・怪1cm小礫を少量含む	
P5	2	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	やや弱	あり	アマ岩を含む	
	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を少々含む	
P6	2	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	3	10Y86/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	黒色(10Y82/1)粒を少々含む	
P7	4	10Y86/6	明黄褐	粘質シルト			黒色粒を多く含む	
	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を少々含む	
P8	2	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	3	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	黒色(10Y82/1)粒を少々含む	
P9	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
P10	3	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	黒色(10Y82/1)粒を多く含む	
	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物を多量に含む	
P11	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	3	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
P12	1	10Y85/3	にじみ黄褐	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	2	10Y84/1	暗褐	粘質シルト	やや弱	あり		
P13	3	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	地山粒を多く含む	
	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物を多量に含む	
P14	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	3	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	黒色(10Y82/1)粒を少々含む	
P15	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物を多く含む	
	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
P16	3	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	黒色(10Y82/1)粒を少々含む	
	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物を多く含む	
P17	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	3	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	黒色(10Y82/1)粒を少々含む	
P18	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物を多く含む	
	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
P19	3	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粒を多く含む	
	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物を多く含む	
P20	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む	
	3	10Y87/6	明黄褐	粘質シルト	あり	強	黒色(10Y82/1)粒を少々含む	
P21	1	1	黒				明黄褐色じり	
	2	2	明黄褐					
P22	1	1	暗褐		あり	強	炭化物・アマ岩を少量含む	
	2	2	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	アマ岩を少々含む
P23	3	3	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	あり	アマ岩を多く含む
	1	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物を多く含む
P24	2	2	10Y82/1	黒	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を多く含む
	3	3	10Y84/1	褐灰	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)粒を多く含む
P25	1	1	10Y85/3	にじみ黄褐	粘質シルト	やや弱	強	炭化物(10Y87/1)粘土粒を少々含む
	2	2	10Y84/3	にじみ黄褐	粘質シルト	あり	あり	明黄褐色(10Y87/6)粘土粒を少々含む
P26	1	1	10Y83/1	黒褐	粘質シルト	やや弱	強	明黄褐色(10Y87/6)の岩粒を少々含む

間の梁筋に柱穴が見当たらないことからここでは個別の柵列とした（第17図・第3表）。

P12から土器細片を検出したが、その他のピットから遺物は出土しなかった。

周辺では、平成26年に農山漁村地域復興基盤総合整備事業（杉の下工区）に伴う確認調査が実施されHT23トレンチで竪穴建物跡1棟が検出されている（気仙沼市教育委員会2019）。

まだ遺跡全域が調査されたわけではないが、古代においてこの周辺に集落が営まれていたと考えられる。

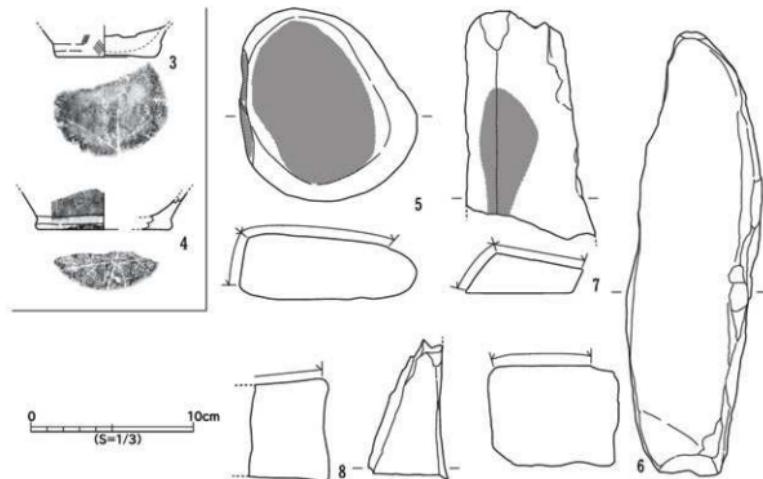
出土遺物

S11の床面直上およびカマド周辺から遺物が出土しているが、土師器甕の底部または胴部の小片、砥石等35点とその総量は多くない。そのうち図化できたものは以下の通りである。土師器

3は北壁近くから、4は周溝から出土した。いずれも甕底部で底面に木葉痕が残る。また胴部には調整痕（ハケ目）が明瞭に残る（第18図・写真1-3・4）。

石製品

いずれも砥石の類である（第18図・写真1-5～8）。5は凝灰岩系の石材を用いた砥石で、周溝から出土した。表面と側面の一部に被熱による変色がみられる。6は大型の砥石で、上面にのみ磨面がある。カマドの焚口近くで出土した。7は全体の形状は不明である。一部に被熱のためと思われる変色がある。周溝近くで出土した。8も全体の形状は不明である。カマド内から出土した。



第18図 16トレンチ出土遺物

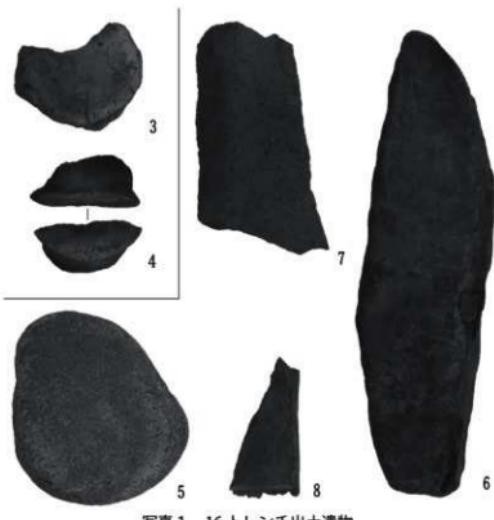


写真1 16トレンチ出土遺物

(5) 24トレンチ

24トレンチで検出した遺構は9基あり、すべて土坑である（第19図・第20図）。このうちSK6・SK9以外の遺構は遺物出土状況などから墓壙と考えられる。また、一部の墓壙では最下層で人骨片が出土しており、堆積状況から改葬が行われたものと推察される。

墓壙1（ST1）

長辺約1.1m、短辺約1mの隅丸方形で、深さは約15cmを測る。最下層に人骨の一部が遺存していたが、遺物は出土しなかった。上部が削平されているため埋葬施設の有無は不明である。

墓壙2（ST2）

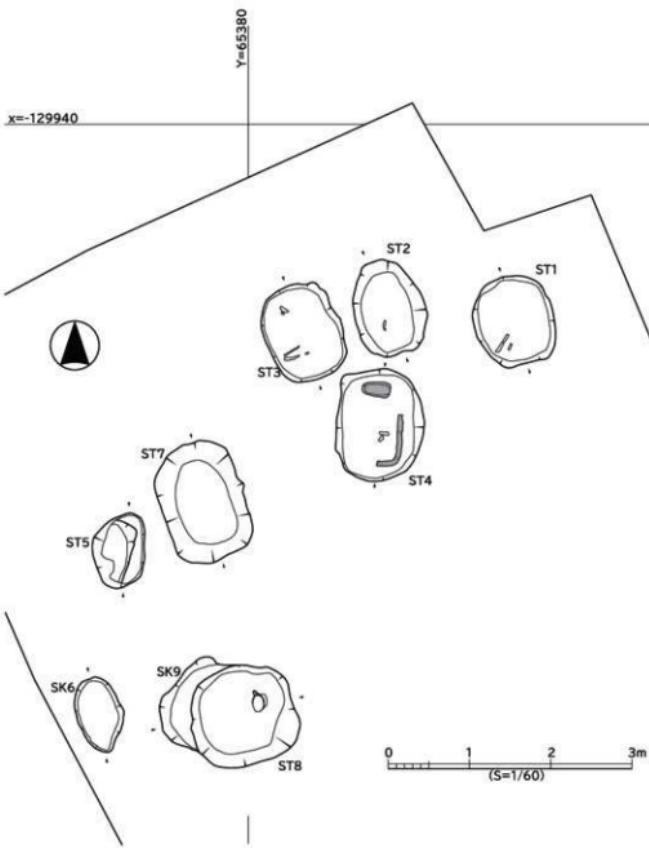
長辺約1.1m、短辺約0.9mの楕円形で、深さは約25cmを測る。最下層に人骨の一部が遺存していたほか銭貨6枚（永楽通宝）が出土したが、上部が削平されているため埋葬施設の有無は不明である。

墓壙3（ST3）

長辺約1.2m、短辺約0.9mの隅丸方形で、深さは約15cmを測る。最下層に人骨の一部が遺存していたが、遺物は出土しなかった。土壙墓と考えられる。上部が削平されているため埋葬施設の有無は不明である。

墓壙4（ST4）

長辺約1.4m、短辺約1.1mの長方形に近い形状で、深さは約35cmを測る。上部が削平さ



第19図 波路上西館跡・波路上西遺跡 24トレンチ遺構平面図

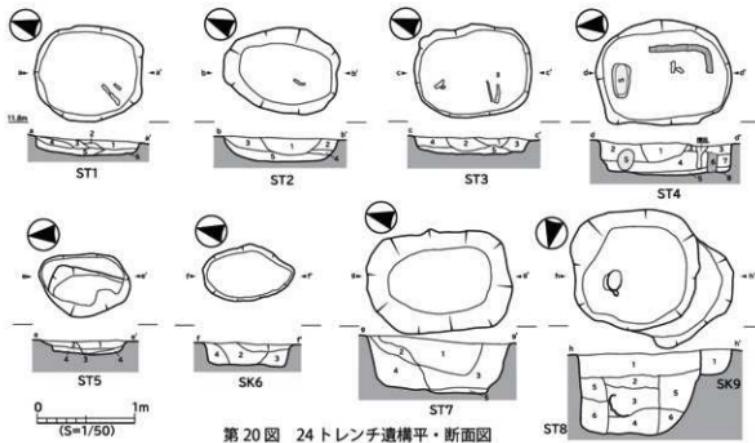
れているが木棺の痕跡が認められ、方形木棺墓と考えられる。最下層で人骨の一部、錢貨（永樂通宝1枚・北宋銭6枚）が出土している。

墓壙5（S T 5）

長径約0.9m、短径約0.7mの椭円状で、深さは約12cmを測る。上部が削平されているが、木片の付着した鉄釘が出土していることから木棺墓と考えられる。

墓壙7（S T 7）

長辺約1.5m、短辺約1.0mの隅丸方形で、深さは約55cmを測る。上部が削平されているが、



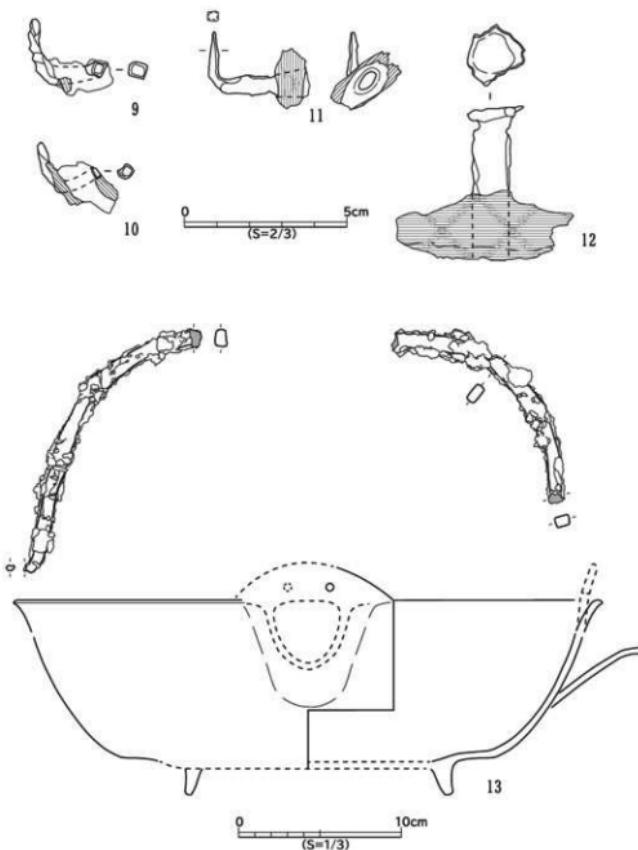
第20図 24トレンチ遺構部・断面図

遺構No	覆土色記号	土色	土質	縫り	粘性	明黄褐(10YR7/6)	土解説記
ST1	1 10YR8/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	色粘土ブロック多量・あま岩少量化む	
	2 10YR4/1	灰灰灰	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土ブロック少量化む
	3 10YR8/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土ブロック多量・同ブロック・あま岩少量化・炭化物微量含む
	4 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量含む
	5 10YR6/6	明黄褐	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	あま岩少量化む
	6 10YR2/2	黒褐色	粘土シルト	やや弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化む(骨残存層)
ST2	1 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土ブロック多量・あま岩少量化む
	2 10YR2/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化む
	3 10YR6/6	明黄褐	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	あま岩少量化む
	4 10YR6/3	にじみ黄褐	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量含む
	5 10YR2/2	黒褐色	粘土シルト	やや弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化む(骨残存層)
ST3	1 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化む
	2 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土ブロック多量・あま岩少量化む
	3 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒2mmより多い
	4 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒・2cm前後の小塊少量化む
	5 10YR2/2	黒褐色	粘土シルト	やや弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化む(骨残存層)
ST4	1 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化む
	2 10YR4/1	灰灰灰	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土ブロック・あま岩少量化む
	3 10YR6/3	黄褐色	シルト質粘土	やや弱	強	明黄褐(10YR7/6)	あま岩少量化む
	4 10YR2/1	灰黄褐色	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・同粘土ブロック少量化・2mm以下小塊・あま岩少量化む
	5 10YR2/2	黒褐色	粘土シルト	やや弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化含む(未梢?)
	6 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	弱	強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・あま岩少量化む
	7 10YR6/6	灰褐色	シルト質粘土	弱	強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・あま岩少量化む
	8 10YR5/6	東褐色	シルト質粘土	弱	強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・あま岩少量化む
ST5	1 10YR4/1	灰灰灰	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒・あま岩少量化む
	2 10YR4/2	灰灰褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・同粘土ブロック少量化・2cm以下小塊・あま岩少量化む
	3 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒・同粘土粒・あま岩少量化む
	4 10YR6/6	黄褐色	シルト質粘土	弱	強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒・あま岩少量化む
ST6	1 10YR2/2	黒褐色	粘土シルト	やや弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化含む
	2 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・あま岩少量化む
	3 7.5YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化含む
	4 10YR4/2	灰黄褐色	粘土シルト	やや弱	強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・同ブロック多量含む・あま岩少量化む
ST7	1 10YR4/1	灰灰灰	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒・同粘土ブロック・あま岩少量化む
	2 10YR4/1	灰灰灰	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化含む
	3 10YR4/2	灰黄褐色	粘土シルト	あり	やや強	明黄褐(10YR7/6)	あま岩少量化含む
	4 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒・同ブロック・あま岩少量化む
	5 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	やや弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化含む
ST8	1 7.5YR3/1	にじみ黄褐色	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・あま岩少量化む
	2 10YR4/3	にじみ黄褐色	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒多量・同粘土ブロック少量化・あま岩少量化む
	3 10YR3/1	黒褐色	粘土シルト	やや弱	やや強	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化含む
	4 7.5YR4/2	灰褐色	シルト	弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒少量化含む(骨(頭蓋含む)あり)
	5 10YR3/1	黒褐色	シルト質粘土	やや弱	あり	明黄褐(10YR7/6)	同粘土ブロック・あま岩少量化む
	6 10YR3/2	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	明黄褐(10YR7/6)	色粘土粒・同ブロック・あま岩少量化む
SK9	1 10YR8/6	黄褐色	シルト質粘土	あり	やや強	明黄褐(10YR7/6)	あま岩多量・灰白(10YR7/1)

木片の付着した鉄釘が出土していることから木棺墓と考えられる。

墓壙8（S T 8）

一边約1.2mの隅丸正方形で、深さは約80cmである。明らかな埋葬施設は確認できなかつたものの断面でその痕跡が見られ、木片の付着した鉄釘が出土したことから木棺墓であると推察できる。また、3層で鉄鍋がやや傾いた状況で出土し、3層から4層にかけては頭蓋骨や四肢骨が出土している。以上のことから、この遺構では改葬が行われておらず、鉄鍋の出土状況から、いわゆる「鍋被り葬」が行われたと考えられる。鍋は当初頭部に逆位で被せられていたものが土圧等で落下したものと見ることができる。



第21図 24 トレンチ出土遺物（鉄製品）

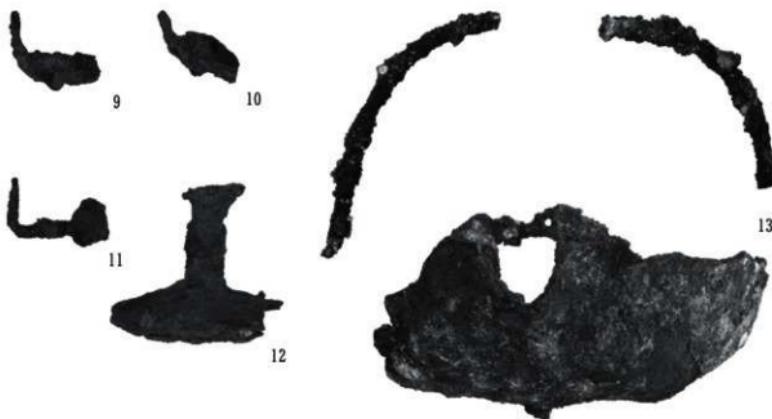


写真2 波路上西館跡・波路上西遺跡1・2・16・24トレンチ出土遺物

出土遺物

墓壙と考えられる遺構から出土した遺物は、前に述べたように銭貨および鉄製品である。また、S T 2・3・4・7の埋土からは多量の小礫が出土している。

鉄釘

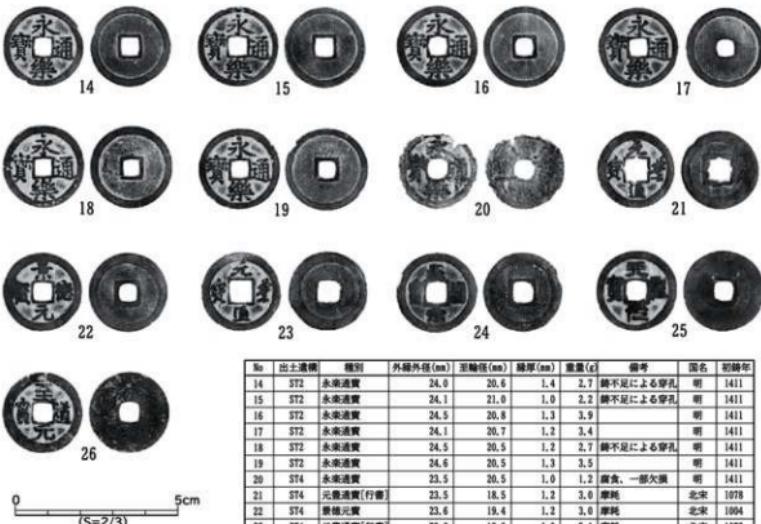
S T 5・7・8から出土している。劣化が著しく図化できたのは4点である。

9～11は小型の鉄釘でS T 8から出土した。いずれもL字状に折れ曲がっており、断面が判明する2点（9・10）はいずれも方形で中空である。11も方形であるが中空であるかどうかは判明しない。一部に木質が残っている。S T 7から出土した12はこれらに比べ大型である。錆に覆われているが、一辺約1cmの方形断面と思われる。釘頭は扁平に変形している（第21図・写真2-9～12）。

鉄鍋

S T 8から出土した。劣化が著しく、応急的にアクリル樹脂で表面をコーティングした上で可能な範囲で断片実測を行い、図上で復元した。そのため推定値ではあるが口径40cm、器高12cm程度のものと考えられる。吊耳の下部に片口が付き、体部には屈曲が見られず、口縁部に向けて直線的に開く。残存する吊耳部には2穴以上の穿孔がある。ツルは断片化しているが2点あり、断面は長方形で端部近くで正方形に近づき外に向かって開く。底部には脚が3足付き、湯口の形状は丸形である（第21図・写真2-13）。

越田氏の形式分類ではC II aにあたる（越田2004）。



第22図 24トレンチ出土遺物（銭貨拓影）

錢貨

S T 2から明銭6枚が重なった状態で出土している。またS T 4から北宋銭6枚および明銭1枚が出土している（第22図-14～26）。いずれも埋葬時に副葬されたいわゆる「六文銭」と考えられる。

小砾

S T 2・3・4・7では、暗灰色の扁平な橢円形の小砾が、埋土の比較的上層に多く混入していた。墨書等の痕跡は見られない（写真3）。このような小石は調査地の周囲、特に海岸近くで多く見られるものであるが、例えばS T 4から出土した小砾の総数は292個、総重量5.6kgを計る（第4表）。これだけの量が混入するのは人為的な行為と考えるべきであろう。

墓に石を積むという行為は、民俗例として全国で普遍的に見られる。また、かつて当地では、幼児や子供が亡くなった時にカゴに小石を入れて地蔵車に吊るす習俗が見られた（気仙沼市1994）という。今後の類例の検討を待ちたい。

第4表 24トレンチ出土小砾法量

遺構No	3cm以下	3~6cm	6cm以上	合計	総重量(kg)	平均重積(g)
ST2	29	134		163	3.4	20.9
ST3	32	84		116	2.5	21.6
ST4	100	191	1	292	5.6	19.2
ST7	24	89		113	2.5	22.1
合計	185	498	1	684	14.0	20.5



写真3 24トレンチ出土小砾（一部）

3まとめ

今回の調査では数多くの遺構を検出した。特に2トレンチでは掘立柱建物跡、16トレンチでは竪穴建物跡や柵列を検出し、古代から続く集落の一端を知ることができた。

また、24トレンチでは近世墓を7基検出したが、そのうちST8では「鍋被り葬」を確認することができた。

鍋被り葬は中世末から近世の東北、関東、信州地域を中心に散見される特異な埋葬形態であり、死者の頭部に鍋を被せて埋葬するもので、異常死や行き倒れの死者を葬る場合に行われることが多いとされている。宮城県内でも数例が知られているが、気仙沼市では初めての事例である。なお、今回出土した人骨が異常死に至る病気に罹患していたかは不明である。

出土した副葬品は銭貨のみで、すべて北宋銭と明銭であった。基本的に銭6枚を六道錢として墓に副葬する習俗について、鈴木氏は室町時代後半から寛永13(1636)年の「寛永通寶」本格発行までを想定している(鈴木1988)が、江戸から離れた当地での状況はそれと異なると考えられる。また、鉄鍋は吊耳を有する片口であるが、越田氏の編年(越田2004)によると片口は16世紀以降、吊耳は17世紀以降と位置づけられている。以上のことから、これらの墓壙が造られた時期は近世以降と考えたい。

今回の調査は限られた範囲の確認調査であり遺跡全体の様相は知り得なかったが、特に気仙沼市内で初めて鍋被り葬の事例を確認した意義は大きい。今後の資料の増加を待ちたい。



1 トレンチ遺構検出状況（北から）



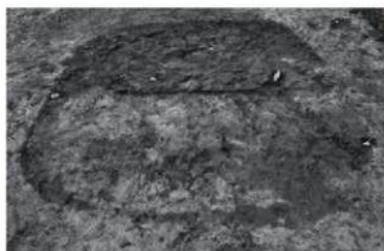
2 トレンチ遺構検出状況（北から）



8 トレンチ遺構検出状況（拡張前・南東から）



16 トレンチ遺構検出状況（拡張前・北東から）



16 トレンチ SI1 検出状況（南東から）



16 トレンチ SI1 完掘後（南東から）



16 トレンチ SI1 カマド拡大（北東から）



24 トレンチ遺構検出状況（北から）

写真4 波路上西館跡・波路上西遺跡発掘現場（1）



24 トレンチ ST1 遺構断面（西から）



24 トレンチ ST2 遺構断面（西から）



24 トレンチ ST3 遺構断面（西から）



24 トレンチ ST4 遺構断面（西から）



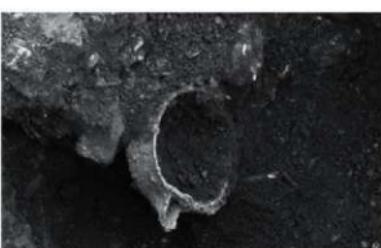
24 トレンチ ST5 遺構断面（西から）



24 トレンチ ST7 遺構断面（西から）



24 トレンチ ST8 遺構断面（北から）



24 トレンチ ST8 遺物（鉄鍋）出土状況

写真5 波路上西館跡・波路上西遺跡発掘現場（2）

第3章 古館貝塚

遺跡名：古館貝塚（宮城県遺跡地名表登載番号 63017）

所在地：気仙沼市唐桑町舗立

調査原因：漁業集落防災機能強化事業（水産用地整備）

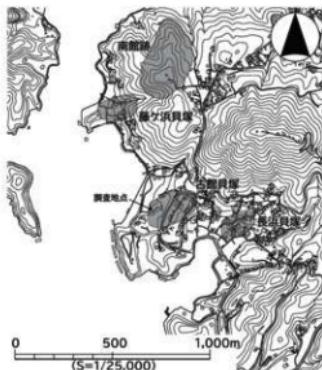
調査主体：気仙沼市教育委員会

調査期間：平成 28 年 3 月 3 日～3 月 10 日

対象面積：1,454m²

調査面積：125m²

調査担当：鈴木寅夫、石川郁



第23図 古館貝塚位置図

1. 調査に至る経過

調査地は唐桑半島の付け根に位置し、内湾に突き出た半島状の鞍部に立地する。

昭和 43 年に旧宮城県蔚が浦高等学校社会班により発掘調査が行われ、縄文時代中期末から後期初頭にかけての遺物が多数出土していることが報告されている（蔚が浦高校 1971）。また、平成 24（2012）年に個人住宅建設に伴う調査では、土坑 4 基とピット 2 基を検出し、縄文時代中期中葉の大木 8b 式から後期前葉の南境式までの特徴を持つ土器が出土している。（気仙沼市教委 2017）

今回の調査は、漁業集落防災機能強化事業のための水産用地（ストックヤード）整備に伴う造成工事に先立ち実施された確認調査である。

2. 調査成果

事業予定地は標高約 2 m の低地であり、震災前には住宅が建っていた。そのため、すでに造成による削平が進んでいると考えられたが、事業によりさらに切土造成が行われることから標高がやや高い地点を中心に 8か所にトレーニングを設定した。

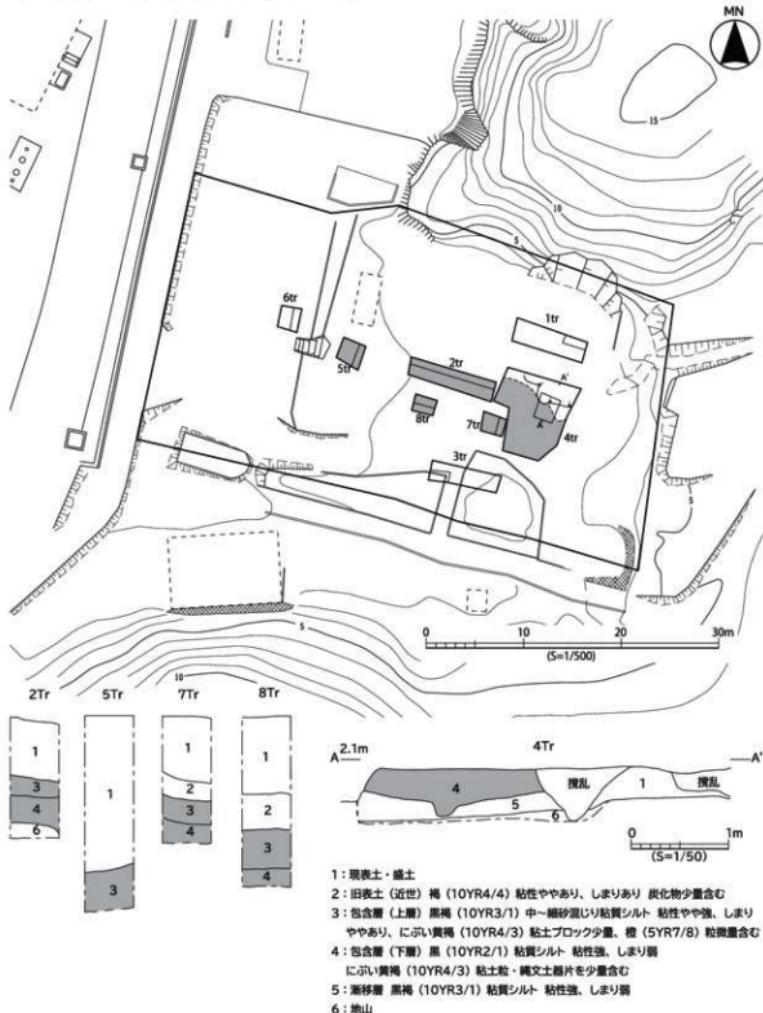
調査の結果、1・3・6 トレーニングを除く各トレーニングで遺物包含層を検出した。これらのトレーニングでは 70 ~ 120cm と非常に厚い盛土・表土の下に包含層が堆積することが確認できた。

その後の工事関係者との協議において、4 トレーニング以外は包含層までの掘削を行わず遺構の保護が図られこととなったため、4 トレーニングのみ工事掘削深度までの調査を行うこととした。調査の結果、包含層の堆積状況を確認したものの、遺構は検出できなかった（第 24 図）。

出土遺物としては、縄文土器片が大半を占めるが、盛土等から少量の土器等の細片がみられる。総じて遺物は細片であり、その総量はコンテナ 1 箱に満たない。そのうち、図化できたものは縄文土器片 1 点であった。

縄文土器

4トレンチ包含層から出土した。縄文土器深鉢口縁部で、瘤状の隆起が1か所あり、その中央を窪ませている。胴部には波状のもの4条を含む10条の沈線が巡る（第25図）。大木6式から大木7b式に相当すると考えられる。



第24図 古館貝塚トレンチ配置図および土層断面・柱状図

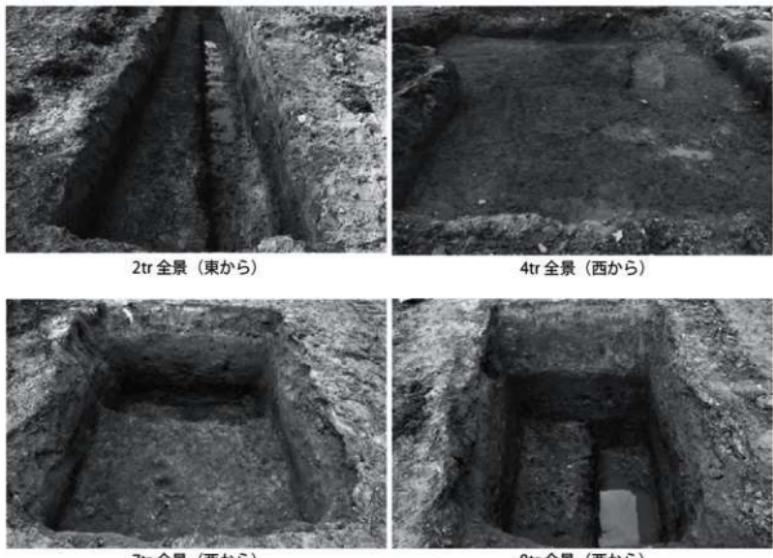


写真 6 古館貝塚確認調査トレンチ



第 25 図 古館貝塚出土遺物

3まとめ

今回の調査で東西に広がる遺物包含層の存在が確認できた。調査地は海拔 2 m 前後に位置し、西側を除く 3 方向は急斜面である。造成により地形は若干改変されているが、包含層は谷筋に沿って形成されたと推察できる。

平成 24 (2012) 年の調査では、貯蔵穴と考えられる土坑が数基検出されており、集落は今回の調査地より上位の丘陵鞍部に位置したのであろう。

いずれにせよ、限られた範囲での調査であり遺跡の全容を知ることはできなかったため、今後の調査に期待したい。

第4章 波路上西館跡・波路上西遺跡

遺跡名：波路上西館跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59036）

波路上西遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59097）

所在地：気仙沼市波路上杉ノ下地内

調査原因：市道向原岩井崎線道路災害復旧事業

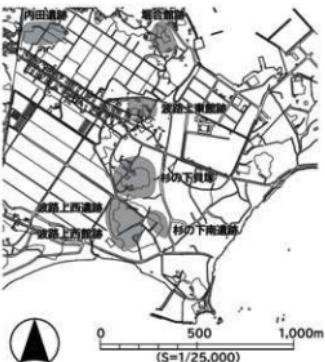
調査主体：気仙沼市教育委員会

調査期間：平成 28 年 7 月 19 日～7 月 21 日（確認調査）

対象面積：2,000m²

調査面積：184.9m²

調査担当：鈴木貴夫、石川郁



第 26 図 波路上西館跡・波路上西遺跡位置図

1. 調査に至る経過

調査地は、平成 26（2014）年度に農村漁村地

域復興基盤総合整備事業（杉の下工区）に伴う確認調査を実施した範囲に含まれており、調査で竪穴建物跡を確認しているが、整備事業による削平を受けないことが確認されたことから現状保存することとなった。その後、市道復旧工事の計画変更に伴い、当該地が事業予定地に含まれることとなったため、再度調査を行ったものである。

2. 調査成果

事業予定地のうち、包蔵地内に該当する範囲を対象としてトレンチを 7 本設定して掘削を行った（第 3 図・第 27 図）。

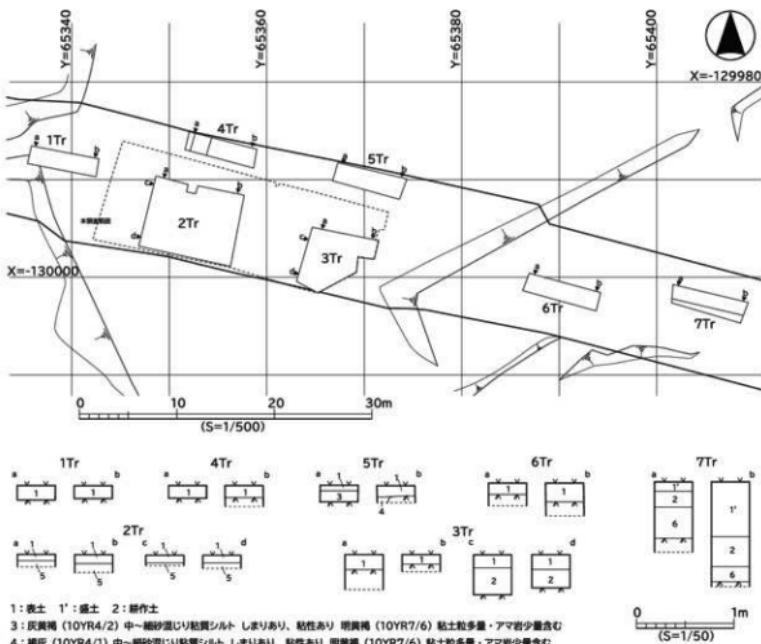
基本的な層序としては、20～30cm 厚の表土とその直下で地山を確認している（1・4・5・6 トレンチ）が、7 トレンチは約 150cm の盛土・耕作土等の下で地山を検出している。

これらのトレンチでは遺構は確認できなかったが、2 トレンチ、3 トレンチでは地山面で遺構を検出したことから、この 2か所についてはいずれも南側に範囲を拡張した。その結果、遺存状態は良くないものの竪穴建物跡のほか、溝・ピットを検出した（写真 6）。

出土遺物は、2・3 トレンチで繩文土器・土師器の細片が出土したのみである。

なお、2 トレンチで検出した竪穴建物跡は、平成 26（2014）年度の確認調査における HT 23 トレンチで検出した竪穴建物跡 S I 1 である。（気仙沼市教委 2019）

以上から、道路予定地のうち 2・3 トレンチの周辺約 250m²を範囲として本調査を実施することとした。なお、本調査の成果については別途報告予定である。



第 27 図 波路上西館跡・波路上西遺跡確認調査トレーンチ配置図・土層柱状図（平成 28 年度調査）

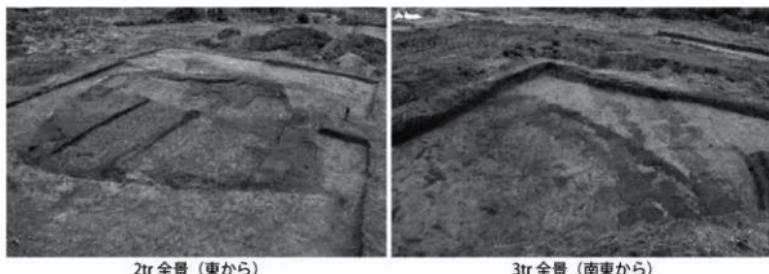


写真 7 波路上西館跡・波路上西遺跡確認調査トレーンチ

第5章 緑館遺跡

遺跡名：緑館遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59024）

所在地：気仙沼市最知北最知地内

調査原因：個人住宅

調査主体：気仙沼市教育委員会

調査期間：平成 28 年 5 月 23 日～7 月 19 日

対象面積：2,877.32m²

調査面積：480m²

調査担当：鈴木實夫、石川郁、森千可子



第 28 図 緑館遺跡位置図

1. 調査に至る経過

緑館遺跡は市域中央付近の気仙沼湾沿岸部に面する標高約 24 m の丘陵頂部から南側斜面に広がっている。この丘陵も含め、東から入り込む谷地形を取り囲む丘陵上には、多くの埋蔵文化財包蔵地が点在している。

平成 26 (2014) 年には、緑館遺跡および隣接する海蔵寺北遺跡の丘陵裾部で、農山漁村地域復興基盤整備事業（最知工区）に伴う確認調査が行われたが、時期不明のピットや、表土中から遺物数点を検出したのみであった。

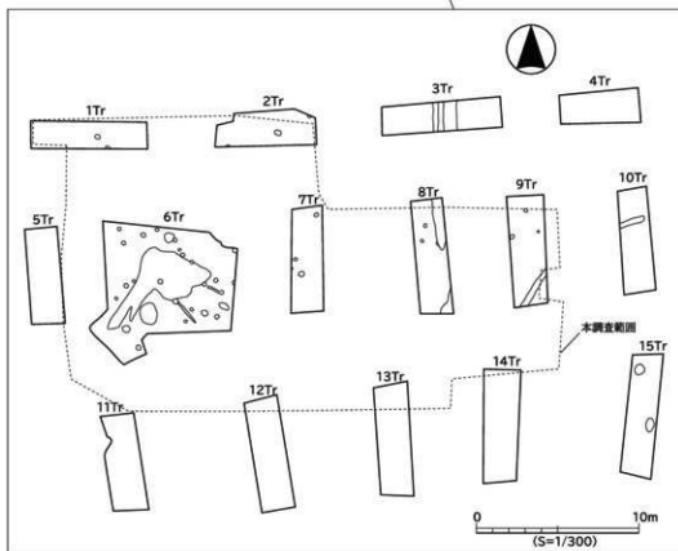
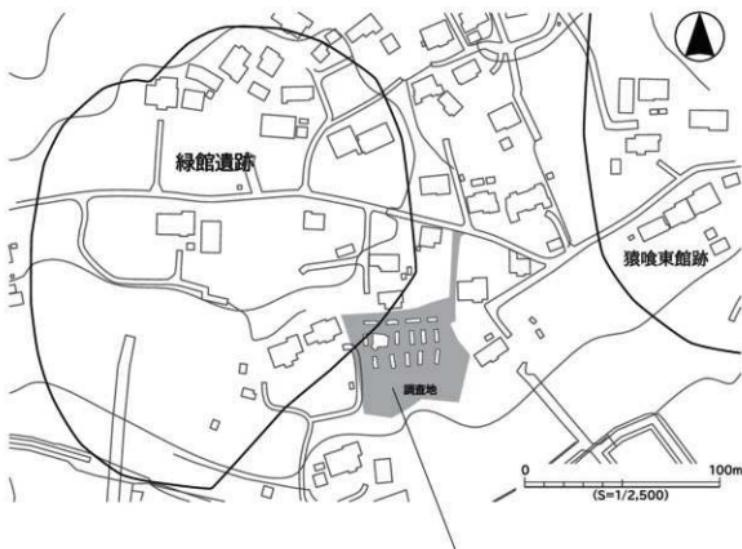
今回の調査は、震災被災者の個人住宅建設に伴い平成 28 年 5 月に確認調査を行ったところ遺構・遺物が検出されたことから、引き続き、遺構が集中して検出されたトレーニングを拡張する形で 7 月まで本調査を実施した。遺構番号はその種類に関わらず連番を付した。

2. 調査成果

今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の東南端に位置する。

確認調査では建設予定地内に 15 本のトレーニングを設定した。そのうち 1・2 トレーニングおよび 6～9 トレーニングで多数の遺構を検出したことから、この範囲を拡張し本調査を実施することとした（第 29 図）。

本調査では、竪穴建物跡 1 棟（S I 179）のほか、土坑 5 基（S K 27・33・58・95・100）、溝状遺構 6 条（S D 12・54・55・111・168・169）、性格不明遺構 2 基（S X 102・125）のほか多数のピットを検出した。ピットについては柱痕跡が残るものもあったが、掘立柱建物跡や柵列が復元できるような規則性を持つ並びは確認できなかった（第 30 図・第 31 図・第 33 図～第 35 図、第 5 表・第 6 表）。



第29図 緑館遺跡確認調査トレンチ配置図

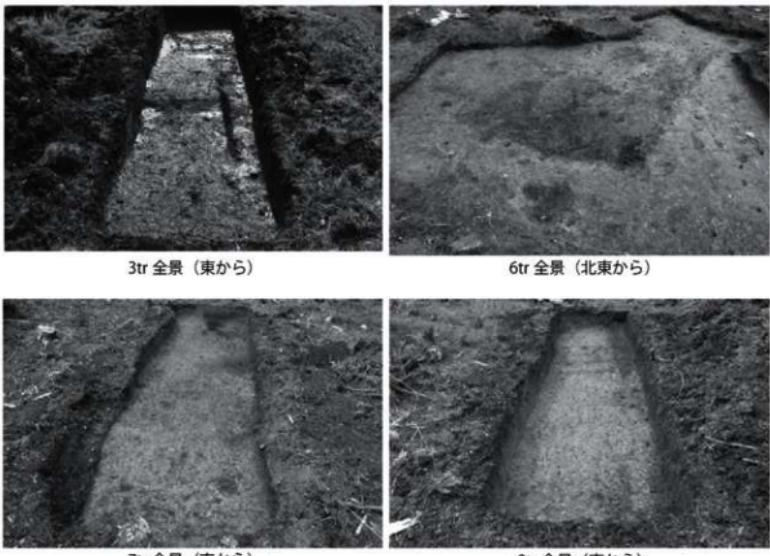


写真 8 緑館遺跡確認調査トレンチ

豎穴建物跡 (S I 179)

豎穴建物跡内およびその周辺で検出した遺構には、整理作業の都合上、別に遺構番号を付している（周溝 1～5、Pit 1～19）。

S I 179は、方形と考えられる豎穴建物跡で、北側の角部のみ検出している。規模は西辺で 4.8 m、東辺で 3.7 mが残る。北東から南西に延びる周溝 5で見ると、磁北から約 45 度東に傾いている。

カマドは確認できなかったが、周溝 5 の中央やや南よりに焼土や炭化物が多く見られる範囲があることから、この周囲で火気が使用されていたのであろう。床面には貼床が施されていたが断片的にしか遺存しておらず面としての範囲を確認できなかったものの、断面で存在を確認している。

床面でピット 9 基 (P 6～9・11～15) を確認し一部で切りあい関係も認められたほか、周溝も部分的に 3 条が平行して検出されていることから、数回の建て替えが行われた可能性が考えられるが、全体に著しい削平を受けており、詳細は把握することができなかった（第 32 図）。

遺物は 100 点余り出土しているが、大半が土師器の細片であった。

土坑（SK 95）

本調査区中央北部で検出した土坑で、長径約1.1m、短径約0.7mの三角に近い椭円形を呈し、深さは約30cmである。最上層から縄文土器の細片が数点出土しているが時期は不明である。

土坑（SK 100）

SK 95の南、約2mの地点で検出した。直径約1.5～1.7mのほぼ円形の遺構で、深さは約65cmである。断面ではレンズ状の堆積が認められ井戸跡のように見えるが、遺物は最上層から縄文土器の細片数点と砥石と思われる石器1点が出土したのみである。時期、遺構の性格とともに不明である。



遺構検出状況（西から）



調査区全景（北西から）



調査区全景（東から）



SK 100 断面（西から）

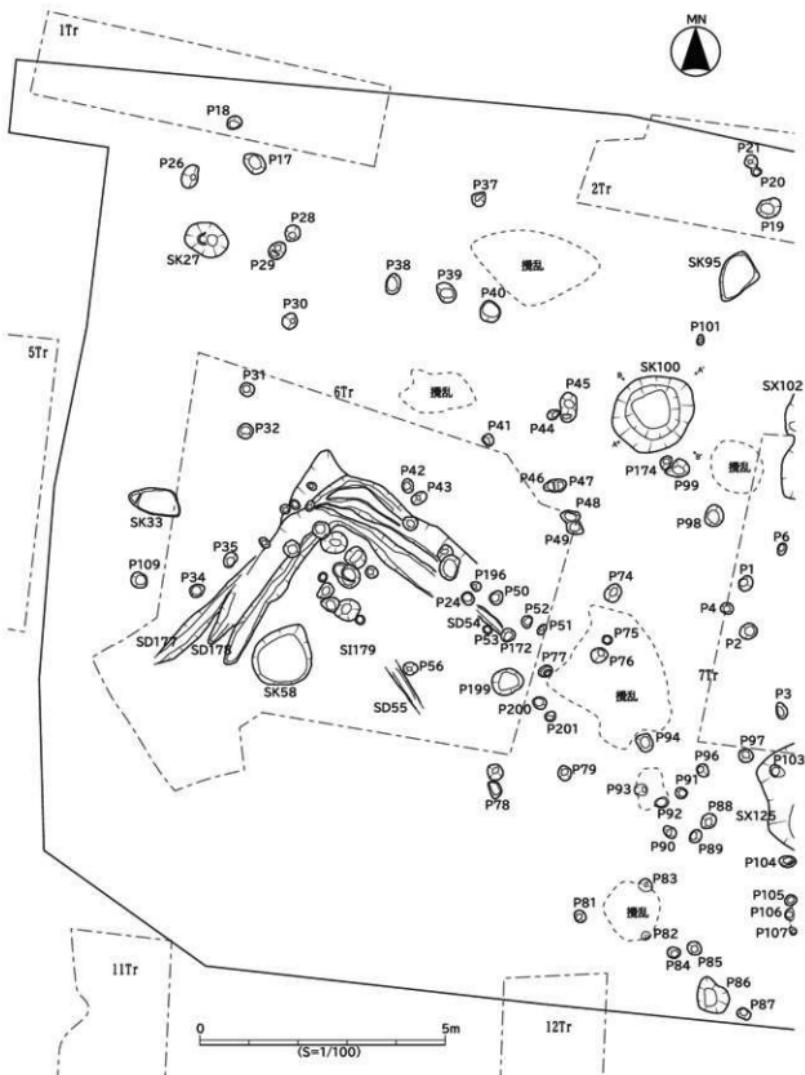


SI179 完掘後（南から）

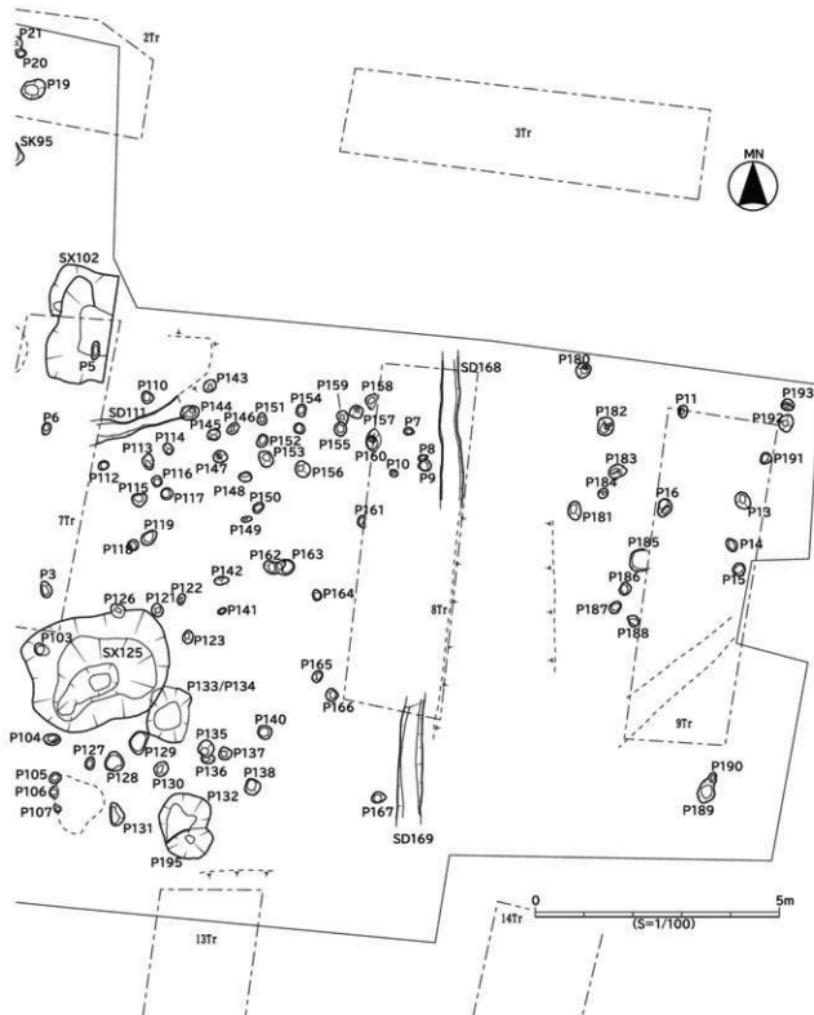


SI179 完掘後（西から）

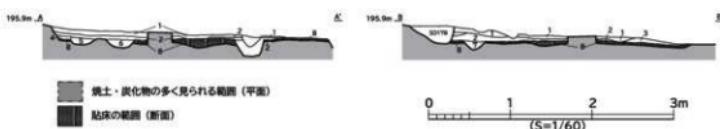
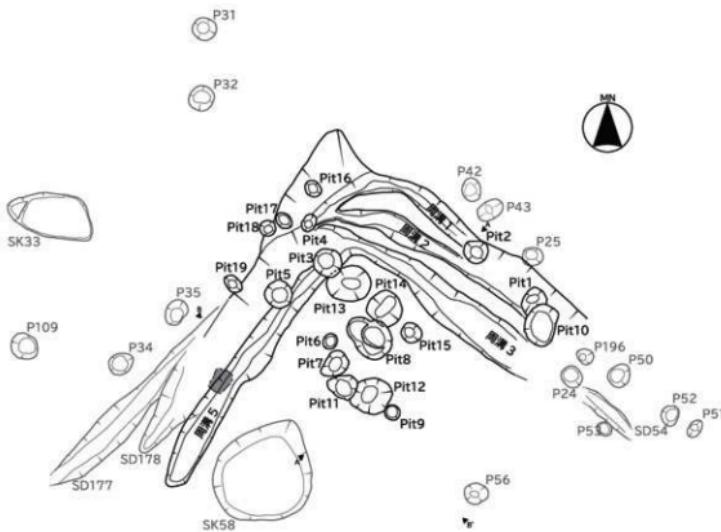
写真9 緑館遺跡本調査発掘現場



第30図 緑館遺跡調査区平面図（西半部）



第31図 緑館遺跡調査区平面図(東半部)



遺構No.	覆土No.	土色記号	土色	土質	縹り	粘性	土層注記
S1179	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	炭化物・地山粒・あま羽を含む
	2	10YR4/2	灰褐色	粘質シルト	やや弱	あり	地山粒を多量に含む
	3	10YR4/2	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	貴霜(10YR5/6)色土・地山粒少量を含む
	4						S1周溝1堆土
	5	10YR4/1	褐灰色	粘質シルト	あり	やや弱	S1周溝2堆土
	6	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む。S1周溝3堆土
	7						S1周溝5堆土
	8	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト	強	あり	炭化物を含む、暗褐色(10YR3/3)色土とあま羽が斑状に混入する(貼床)

第32図 緑館遺跡S 1 179平面・断面図

第5表 緑館遺跡検出遺構一覧(1)

No	遺構種別	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	状態	備考	No	遺構種別	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	状態	備考
1	P	32	26	31	○		91	P	25	21	13	?	
2	P	35	30	38	○		92	P	(30)	(20)	(40)	-	上部は擾乱で削平
3	P	34	21	19	○		93	P	(26)	(24)	(30)	○	上部は擾乱で削平
4	P	26	21	33	○		94	P	39	35	12	-	
5	P	37	13	-	-		95	SX			29	-	遺物出土
6	P	25	17	8	-		96	P	29	22	17	-	
7	P	20	15	32	○		97	P	31	28	25	○	
8	P	20	13	-	-		98	P	44	37	25	○	
9	P	25	22	-	-		99	P	(42)	40	30	?	P174を円形が切る
10	P	16	13	-	-		100	SX			65	-	遺物出土
11	P	25	18	20	?		101	P	21	13	10	-	
12	SD?			22	?		102	SX			58	-	遺物出土
13	P	32	30	21	?		104	P	37	23	29	○	
14	P	29	21	-	-		105	P	21	(23)	13	-	東側は擾乱で遺存せず
15	P	26	25	-	-		106	P	35	(18)	(13)	-	東側は擾乱で遺存せず
16	P	39	27	20	-		107	P	(17)	(14)	(15)	-	東側は擾乱で遺存せず
17	P	49	26	48	○		109	P	35	30	36	○	
18	P	30	24	12	?		110	P	25	24	13	○	
19	P	50	37	20	?		111	SD			8	-	
20	P	(26)	16	24	?	F20をP21が切る	112	P	21	17	-	-	
21	P	30	26	8	-	F20をP22が切る	113	P	35	13	9	○	
22	P	27	19	5	-	S1179の上面連構か?	114	P	24	18	25	○	
24	P	27	22	25	-		115	P	31	26	40	○	
25	P	25	21	10	-		116	P	29	20	-	-	
26	P	49	33	29	○		117	P	25	25	42	○	
27	SX			49	-		118	P	22	22	17	○	
28	P	32	30	19	○		119	P	36	24	24	○	
29	P	39	31	30	-		121	P	35	23	15	-	
30	P	32	30	24	○		122	P	22	14	17	○	
31	P	30	28	19	○		123	P	28	21	25	○	
32	P	32	31	17	?		125	SX			65	-	遺物出土
33	SX			15	-		126	P	32	26	32	?	
34	P	30	25	13	?		127	P	26	20	8	-	
35	P	33	25	29	○		128	P	40	38	15	○	
37	P	29	27	12	-		129	P	47	33	11	○	
38	P	43	30	10	-		130	P	33	26	20	○	
39	P	45	35	11	-		131	P	47	39	14	?	
40	P	44	40	17	-		132	P	103	(79)	26	-	P132をP194が切る 遺物出土
41	P	24	21	19	-		133	P	?		19	○	
42	P	28	22	20	-		134	P	?		19	○	
43	P	34	23	42	○		135	P	35	32	20	○	
44	P	26	20	37	○	遺物出土	136	P	29	(19)	14	-	
45	P	61	31	40	?		137	P	25	24	15	-	
46	P	(29)	25	37	-	P46をP47が切る	138	P	32	30	10	○	
47	P	27	26	9	-	P46をP47が切る	140	P	29	28	11	-	
48	P	39	(20)				141	P	19	11	12	?	
49	P	(36)	30				142	P	39	16	20	○	
50	P	30	25	3	-		143	P	36	24	17	○	
51	P	24	15	19	-		144	P	39	29	33	○	
52	P	24	20	18	-		145	P	27	20	16	○	
53	P	19	16	23	○		146	P	27	19	11	○	
54	SD			5	-		147	P	29	25	-	-	
55	SD			5	-		148	P	27	19	20	○	
56	P	30	26	11	-		149	P	24	10	22	○	
58	SX			25	-	遺物出土	150	P	34	17	31	○	
73	P	30	28	27	○		151	P	25	19	32	○	
74	P	38	30	30	○		152	P	27	20	12	○	
75	P	(20)	(18)	(10)	-	上部は擾乱で削平	153	P	34	27	50	○	
76	P	(33)	(28)	32	○	上部は擾乱で削平	154	P	26	20	-	-	
77	P	29	22	14	○	遺物出土	155	P	23	21	-	-	
78	P	35	22	14	-		156	P	33	30	46	○	
79	P	30	26	23	○		157	P	30	26	22	○	
81	P	23	22	27	○		158	P	35	(22)	16	?	東側遺存せず
82	?	(20)	(10)	(8)	-	上部は擾乱で削平	159	P	21	21	19	○	
83	P	30	(26)	33	○	南半は擾乱により遺存せず	160	P	45	(31)	24	○	東側遺存せず
84	P	26	22	15	?		161	P	25	15	-	-	
85	P	30	28	11	?		162	P	34	24	19	?	
86	P	60	63	15	-		163	P	37	30	25	?	
87	P	28	19	15	○		164	P	22	18	13	?	
88	P	35	27	30	○		165	P	25	19	19	-	
89	P	28	24	14	?		166	P	25	25	22	○	
90	P	30	20	26	○		167	P	33	21	6	-	

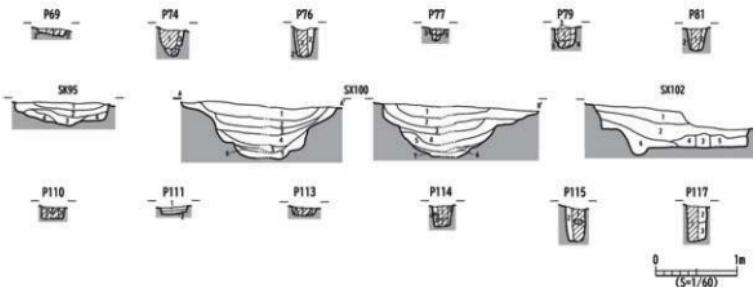
第6表 緑館遺跡検出遺構一覧（2）

No	遺構種別	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	柱痕	備考	No	遺構種別	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	柱痕	備考
168	SD	-	-	10	-		188	P	25	22	13	-	
169	SD	-	-	12	-		189	P	(45)	34	16	?	
174	P	30	(26)	27	○	P174をP99が切る	190	P	(20)	15	12	?	
179	SI	-	-	-	-		191	P	24	24	-	-	
180	P	33	27	23	○		192	P	36	32	34	○	
181	P	39	25	17	?		193	P	26	22	20		
182	P	36	32	18	?		194	P	100	(62)	19	○ P12をP194が切る 遺物出土	
183	P	39	26	10	-		195	P	21	17	9	-	
184	P	21	16	-	-		199	P	64	52	42	?	遺物出土
185	P	44	(30)	-	-	東側遺存せず	200	P	27	22	17	-	
186	P	25	22	14	-		201	P	20	19	14	-	
187	P	26	19	21	○								



遺構No	覆土No	土色記号	土色	土質	縁り	粘性	土層記号
P118	1	10YR3/3	暗褐	粘質シルト	やあり	あり	炭化物・小石を含む（柱痕）
	2	10YR3/3	にじ・暗褐	粘質シルト	やあり	あり	小石含む
P119	3	10YR5/6	黄褐	粘質シルト			にじ・黄褐(10YR4/3)色土を含む
	1	10YR4/1	褐灰	粘質シルト	やあり	あり	地山粒を含む（柱痕）
	2	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	やあり	あり	地山粒を1より多く含む（柱痕）
	3	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	やあり	あり	明黄褐(10YR6/6)色土を斑状に含む
	4	10YR3/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を少量化
P120	5	10YR4/6	褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を少量化含む
	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	あり	ややあり	赤褐(5YR4/8)色・明褐(7.5YR5/8)色の岩粒を含む。小石を多量に含む（柱痕）
P121	2	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	ややあり	小石を多量に含む
	1	10YR3/3	暗褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒と小石を含む（柱痕）
P122	2	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（柱痕）
P123	2	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を少量化
	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	あり	ややあり	黒褐(10YR3/2)色土を少量化含む
P126	2	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	中-細粒砂じり粘土ありあり 明黄褐(10YR7/6)色粘土粒を少量化含む
	3	10YR3/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒と小石を含む（柱痕）
	4	10YR3/1	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	中-細粒砂じり粘土ありあり 明黄褐(10YR7/6)色粘土粒を多量含む
	1	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
P127	2	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	ややあり	地山粒を含む
	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	あり	ややあり	地山粒・小石を含む（柱痕）
P128	2	10YR5/6	黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒と少量化含む
	3	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
	4	10YR4/8	褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
	1	10YR3/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒・あま岩含む（柱痕）
P129	2	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	黒褐(10YR3/4)色土を少量化含む（柱痕）
	3	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	あま岩を含む
	4	10YR4/6	褐	粘質シルト	あり	あり	あま岩を含む
	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（柱痕）
P130	2	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	強	あり	地山粒を少量化含む
	3	10YR5/4	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	灰黄褐(10YR5/4)色土をわずかに含む
	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（柱痕）
	2	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒と中2cmの小石を含む（柱痕）
P131	3	10YR5/4	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	ややあり	地山粒をわずかに含む
	4	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	ややあり	地山粒と中2cmの小石を含む
	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	やあり	あり	地山粒を多量、Φ1cmの小石を含む（柱痕）
	2	10YR4/4	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒を多く含む（柱痕）
P133	3	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒をわずかに含む
	4	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	弱	あり	地山粒をわずかに含む
	5	10YR4/2	灰黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒をわずかに含む
	6	10YR4/3	暗褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒をわずかに含む
P134	7	10YR4/3	にじ・黄褐	粘質シルト	あり	あり	地山粒をわずかにΦ2cmの小石を含む

第33図 緑館遺跡構造断面図（1）



遺構No	覆土No	土色記号	土色	土質	紺り	粘性	土層注記
P69	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒含む、炭化物を少量含む（柱痕）
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	細かい地山粒を含む
P74	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	ややあり	あり	地山粒・あま岩を多く含む（柱痕）
	2	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・中・大cmのあま岩を含む（柱痕）
P76	1	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・あま岩を多く含む（柱痕）
	2	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・あま岩を多く含む（柱痕）
P77	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・炭化物を少量含む（柱痕）
	2	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒含む（柱痕）
P79	1	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・中・大cmのあま岩を含む（柱痕）
	2	10YR6/4	明黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・あま岩を少量含む（柱痕）
P81	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	強	あり	地山粒・炭化物を少量含む（柱痕）
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	強	あり	地山粒含む（柱痕）
P100	1	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒多量に含む
	2	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（柱痕）
P102	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（柱痕）
	2	10YR4/1	灰褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（柱痕）
	3	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黒褐色(10YR3/2)色土を混入、地山粒を多く含む
	4	10YR4/2	灰褐色	粘質シルト	ややあり	あり	黒褐色(10YR3/2)色土を混入、地山粒を多く含む
	5	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を微量含む
P110	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	ややあり	あり	地山粒・中・大cmのあま岩を含む（柱痕）
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒含む
SK95	1	10YR2/2	黒褐色	粘質シルト	弱	あり	地山粒少量・炭化物・川原石を含む
	2	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を少量含む
	3	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を多く、黒褐色(10YR2/1)色土を少量含む
	4	10YR6/6	明黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黒褐色(10YR2/1)色土を少量含む
SX100	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・炭化物を多量に含む
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	強	地山粒を含む
SX102	3	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	強	地山粒・中・大cmのあま岩を含む
	4	10YR5/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	強	地山粒を多く含む、あま岩を含む
	5	10YR6/4	黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を多く含む
	6	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	弱	あり	地山粒を少量含む
	7	10YR5/6	明黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・中・大cmのあま岩を多量に含む
	8	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒含む
	9	10YR3/1	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒含む（1より少ない）
SX102	3	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	こぶし黄褐色(10YR4/3)色土が塊状に混入
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を少量含む
	5	10YR6/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黒褐色(10YR3/1)色土が塊状に混入
	6	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	こぶし黄褐色(10YR4/3)色土が塊状に混入
	7	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・地山粒含む（柱痕）
	8	10YR4/5	褐褐色	粘質シルト			炭化物を少量含む（柱痕）
P111	3	10YR3/3	暗褐色	粘質シルト			あま岩を含む
	4	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	ややあり	地山粒を多量・炭化物を少量含む
P113	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	ややあり	地山粒を含む（柱痕）
	2	10YR4/4	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
P114	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	ややあり	地山粒を少量含む（柱痕）
	2	10YR3/1	黒褐色	粘質シルト	ややあり	あり	地山粒を含む（柱痕）
	3	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・中・大cmの石を含む
P115	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・中・大cmの石を含む（柱痕）
	2	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黒褐色(10YR4/6)色土を含む
P117	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	中やあり	あり	地山粒を少量含む（柱痕）
	2	10YR4/3	こぶし黄褐色	粘質シルト	あり	あり	黒褐色(10YR3/2)色土をまだらに含む、地山粒を少量含む
	3	10YR6/6	明黄褐色	粘質シルト	ややあり	強	小石を含む

第34図 緑館遺跡遺構断面図（2）



遺構No	標土名	土色記号	土色	土質	縫り	粘性	土層注記
P134	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒含む、土脚部出土（柱頭）
	2	10YR4/1	暗灰褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（1より少ない）
	3	10YR2/3	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・あま岩含む
	4	10YR4/3	にひく黄褐色	粘質シルト	強	あり	地山粒を多量・φ3~4cmの小礫を含む
P135	5	10YR5/4	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む・φ5cmの小礫を含む
	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む（柱頭）
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒・赤褐色（5TH4/8）色岩を含む
	3	10YR5/3	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩を含む
P136	4	10YR3/3	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を多量に含む
	5	10YR5/4	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
	6	10YR5/4	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	炭化物を少額・地山粒を含む
P137	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩を含む
	3	10YR5/4	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩を多量に含む
	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩を含む（柱頭）
	2	10YR5/4	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩を含む（柱頭）
P138	3	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	あり	あま岩を含む
	4	10YR4/3	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
	5	10YR4/3	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	地山粒を含む
	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	ややあり	あり	炭化物・地山粒を含む
P140	2	10YR4/3	にひく黄褐色	粘質シルト	あり	あり	φ5cmのあま岩を含む

第35図 緑館遺跡遺構断面図（3）

性格不明遺構（S X 102）

S X 102は、S K 100の東、約2mに位置する長辺約2.2m、短辺約1.4mの長方形に近い遺構で、深さは約60cmである。最上層で縄文土器の細片1点、下層でも縄文土器が数点出土しており、遺構とすれば時期不明ながら縄文時代のものとなる。ただし、土層の状況から单一遺構と断定することはできず、性格不明遺構と位置付けた。

出土遺物

今回の調査では、調査面積や検出した遺構数に比べて、図化できる資料は非常に少なかった。

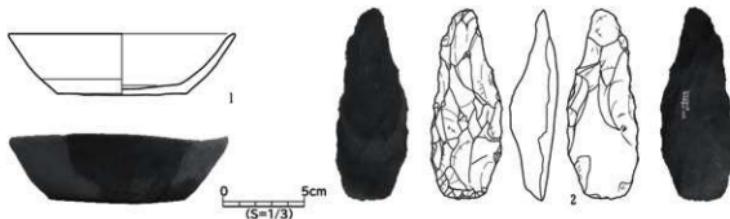
土師器

S I 179から出土した土師器碗で口縁の一部を含み約1/3が残っている。推定復元で口径13cm前後、器高約3.5cmである。全体に摩滅しており調整痕は確認できない（第36図-1）。

石器

S X 125の第2層から出土した頁岩製の打製石斧で、長さ約11.5cm、幅約4.5cmを測る。

全体に調製は荒く、最大厚約3cmと厚みがあり、片面が非常に滑らかで砥石の再利用とも考えられる（第36図-2）。遺構の土層注記が残されておらず断定はできないが、埋土の堆積状況から自然堆積土中から出土した可能性がある。



第36図 緑館遺跡出土遺物

3 まとめ

今回の調査では多くの遺構を検出し、古代における緑館遺跡の様相を一部ではあるが知ることができた。遺跡周辺の最知地域では丘陵尾根に数多くの遺跡が連なっており、また時代もバラエティに富んでいる。この後も小規模ながら発掘調査・工事立会が行われており、それらの総合的な分析に期待したい。

第6章 長磯浜遺跡

遺跡名：長磯浜遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59100）

所在地：気仙沼市長磯浜地内

調査原因：個人住宅

調査主体：気仙沼市教育委員会

調査期間：平成 30 年 2 月 9 日（確認調査）

平成 30 年 3 月 6 日～3 月 8 日（本調査）

対象面積：278.43m²

調査面積：24.41m²

調査担当：鈴木貴夫、石川郁、熊谷満、森千可子



第37図 長磯浜遺跡位置図

1. 調査に至る経過

長磯浜遺跡は市域中央、気仙沼湾沿岸に面した

階上地区にあり、畑地を中心に縄文土器等の散布がみられることから、埋蔵文化財包蔵地として登録されていた。本格的な調査の手が入ることはほとんどなかったが、平成 21（2009）年から翌年度にかけて、市道下原浜線改良工事に伴う発掘調査が行われており、包含層・貝層、縄文土器・石器等が検出されている。

今回の調査は、震災被災者の個人住宅建設に伴う確認調査である。調査は平成 30 年 2 月に確認調査を行い遺構・遺物を検出したことから、掘削が遺構面に影響を及ぼすガレージ部分について 3 月に本調査を実施することとなった。

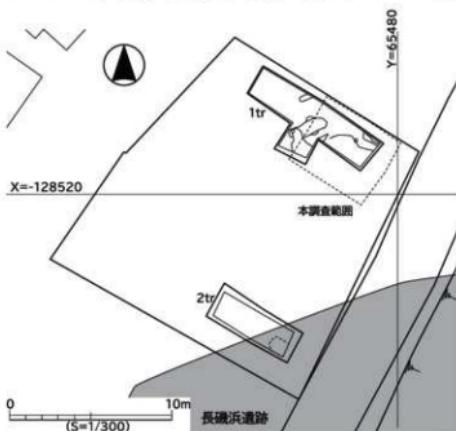
2. 調査成果

今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の北端に位置する。

確認調査では敷地内に 2 本のトレンチを設定した（第 38 図）。

1 トレンチでは表土下 30cm で地山を検出し、地山面で土坑・溝状遺構・ピットを検出したが、2 トレンチでは遺構・遺物は確認できなかった。

本調査は確認調査で遺構を検出



第38図 長磯浜遺跡確認調査トレンチ配置図

した1トレンチの南半部から南方向にかけて約5m×約4.5mのトレンチを設けて実施した。その結果、竪穴建物跡1棟（S I 1）、土坑2基（SK 2・5）、溝状遺構2条（SD 3・4）、ピット1基（P 6）を検出した（第39図）。

竪穴建物跡（S I 1）

トレンチ南東端で検出した円形の竪穴建物跡である。トレンチ内で最大幅約90cmの範囲が確認できているが、大半はトレンチ外にあり全体の規模は不明である。また、壁近くで検出した溝状遺構SD 3はS I 1の周溝の可能性がある。埋土は上下2層あり、最深部で約50cmを測る。締まりが極めて良好で貼床の可能性もある。

土坑（SK 2）

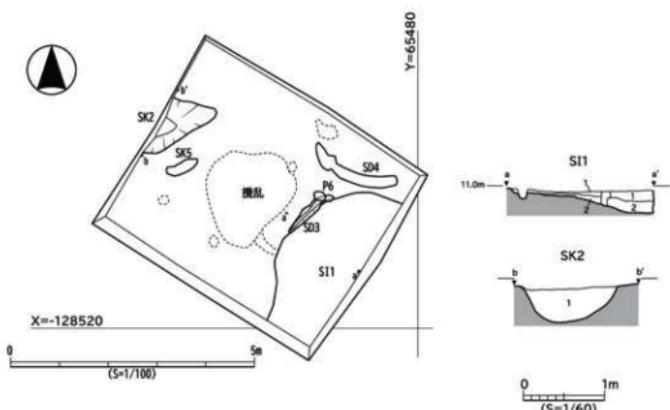
トレンチ北西壁沿いで検出した土坑で、長さ約75cm、幅50cmを確認している。確認調査時に土坑の西半部を検出しており、全長は約2.5mの長楕円形と思われる。深さは約60cmあり、埋土は単一層であった。

出土遺物

出土遺物の総量は遺物コンテナ1箱で、縄文土器片、石器、円盤状土製品であったが、土器類は総じて摩滅が進み、図化し得るものは少なかった。

円盤状土製品

3点確認している。長径3.5～4.2cm、短径3.0～3.4cmのやや楕円形である。全体に摩耗し



遺構No	覆土No	土色記号	土色	土質	繰り	粘性	土層記
SII	1	10YR3/3	黒褐	中～細粒粘土シルト強	強	縄文土器片含む	
	2	10YR3/4	暗褐	中～細粒粘土シルトやや強	やや強	黄褐(10YR6/6)	粘土～岩少量含む
SK2	1	10YR3/2	黒褐	粘質シルト	強	縄文土器片少量含む	

第39図 長磯浜遺跡本調査遺構平面図

ているが、1は僅かに縄文が残る。2・3は縁が研磨されている。いずれも縄文土器の脚部を利用したものと考えられる（第40図-1～3）。

磨石・敲石

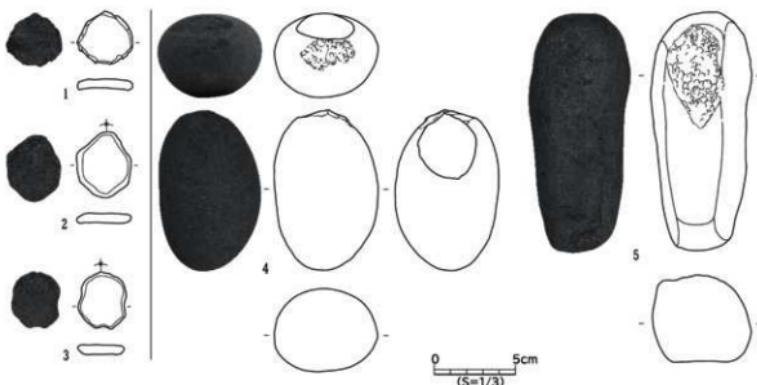
4は、長径約10cm、短径約5.2～6.5cmの長球形の砂岩で、一部欠損している。表面は滑らかで全体を磨面とする磨石であるが、一部に敲打痕が残る。5は、全長約15cm、幅約6.4cm、厚さ約5.5cmの角柱状に長い砂岩の円盤で、上面の一部に敲打痕が残り敲石であろう。（第40図-4・5）。

3 まとめ

今回の調査地は長磯浜遺跡の縁辺部に位置しているが、竪穴建物跡を検出したことから、集落はかなり広い範囲に広がっていたと考えられる。これまで実施された発掘調査の成果も踏まえながら、その様相を明らかにしていきたい。



写真10 長磯浜遺跡発掘現場



第40図 長磯浜遺跡出土遺物

第7章 猿喰東館跡

遺跡名：猿喰東館跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59045）

所在地：気仙沼市最知北最知地内

調査原因：個人住宅

調査主体：気仙沼市教育委員会

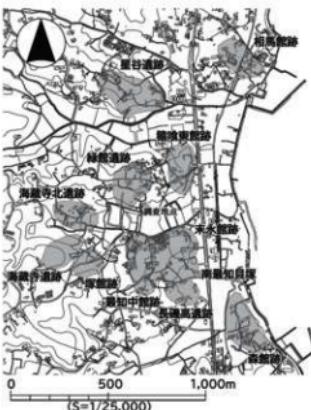
調査期間：平成 30 年 3 月 12 日～3 月 13 日・5 月 31 日・

6 月 6 日

対象面積：781.31m²

調査面積：205.9m²

調査担当：鈴木貴夫、石川郁、熊谷満、青木昭和



第 41 図 猿喰東館跡位置図

1. 調査に至る経過

猿喰東館跡は市域中央付近にあり、気仙沼湾沿岸に面した丘陵東端部に位置する。明和 9 (1772)

年の『封内風土記』に「猿喰館」の名が見えるなど、古くから館跡の存在が知られていたようである。近年では、平成 25 (2013) 年度に主郭部と考えられる地点で個人住宅建設に伴う調査が、また平成 26 (2014) 年度には防災集団移転事業に伴う調査が実施されている。

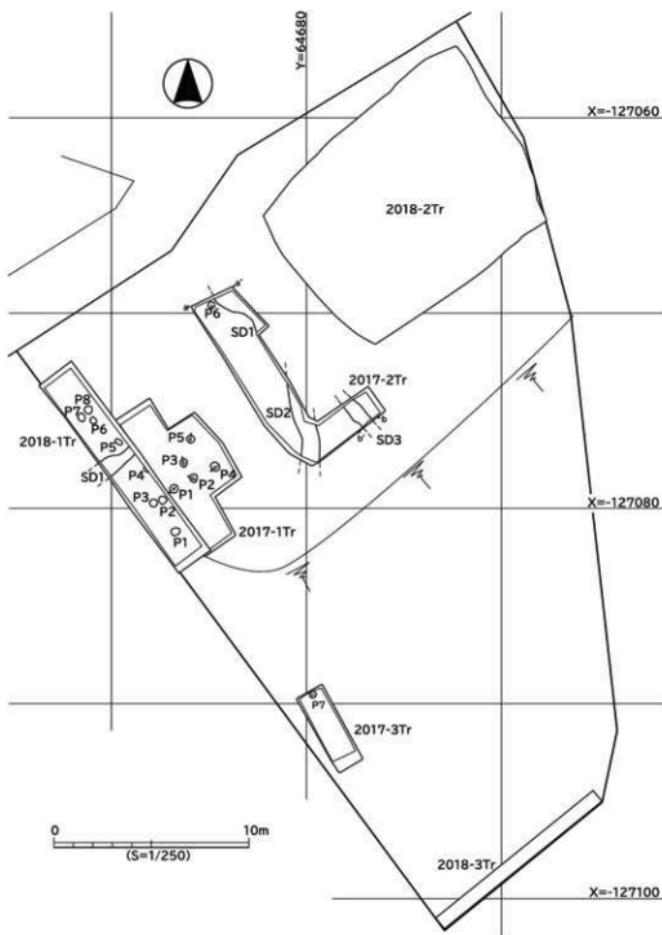
今回の調査は、震災被災者の個人住宅建設に伴う確認調査である。調査は平成 30 年 3 月 12 日・13 日に建物部分の確認調査を行い、その後、敷地東側への擁壁の設置や、敷地東北部の整地による掘削といった追加工事が発生したことから、5 月 31 日と 6 月 6 日にも確認調査を実施した。なお遺構番号は調査年度ごとに付したため、同一の調査対象地であるが同じ番号の遺構が存在する。

2. 調査成果

今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の南西に隣接する南側丘陵斜面にあり、平成 29 年度の調査では建物基礎に沿って 3か所にトレント (2017-1Tr ~ 3Tr) を、平成 30 年度の調査でも 3か所にトレント (2018-1Tr ~ 3Tr) を設定した (第 42 図)。

2017-1Tr は調査対象地の東に設定した北西から南東方向に長さ約 8 m、幅約 2 m のトレントで、ピットを確認した中央部を北東方向に約 4 m × 1.5 m 拡張している。遺構はピット 5 基 (P 1 ~ 5) を検出した。いずれも直徑 30cm 前後を測り、柱痕が残る。深さは P 5 が最も浅く、南西に行くほど深くなっているが、斜面が平坦に造成されたためと考えられる。

2017-2Tr は、調査対象地の中央北よりに、北西から南東方向に L 字型に設定したトレントで、北端で S D 1、中央で S D 2、東端で S D 3 の計 3 条の溝状遺構とピット 1 基 (P 6) を検



第42図 猿喰東館跡確認調査トレーンチ配置図

出した。

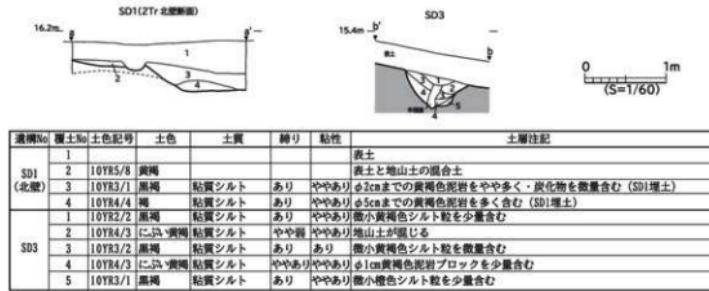
S D 1 は北壁の断面で堆積状況を確認したが、2層に分けられるものの、流路状の堆積ではなく、また片側の肩部はトレーンチ外にあり、溝であるかどうかは不明瞭である。S D 3 は L字の短辺を横断する形で約 1.4 m の長さを検出した。埋土は黒褐色と黄褐色のいずれも粘

Soil profile drawings P1-P5 showing soil types and thicknesses:

- P1: 14.6m → P1 (10YR2/2 黒褐色), 14.6m → P2 (10YR5/5 黄褐色)
- P2: 14.7m → P3 (10YR3/2 黒褐色), 14.7m → P4 (10YR5/6 黄褐色)
- P3: 14.7m → P4 (10YR3/2 黒褐色), 14.8m → P5 (10YR4/4 黑褐色)
- P4: 14.8m → P5 (10YR4/4 黑褐色)
- P5: 14.8m → P5 (10YR4/3 黑褐色)

Scale: 0 ~ 1m (S=1/60)

測定No	覆土 No	土色記号	土色	土質	縫り	粘性	土層注記
P1	1	10YR2/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	φ2~3cmシルト岩ブロック・炭化物を少量含む(柱直)
	2	10YR5/5	黄褐色	粘質シルト	ややあり	ややあり	φ2~4cmシルト岩ブロックを少量含む
P2	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	φ2~3cmシルト岩ブロック・炭化物を少量含む(柱直)
	2	10YR5/6	黄褐色	粘質シルト	ややあり	ややあり	φ2~4cmシルト岩ブロック・炭化物を少量含む
P3	1	10YR3/2	黒褐色	粘質シルト	あり	あり	φ2~3cmシルト岩ブロック・炭化物を少量含む(柱直)
	2	10YR4/4	黑褐色	粘質シルト	ややあり	ややあり	φ2~4cmシルト岩ブロック・炭化物を少量含む
P4	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘質シルト	あり	ややあり	φ1~2cmシルト岩ブロック・炭化物を少量含む
	2	10YR4/3	[に] 黄褐色	粘質シルト	ややあり	ややあり	φ1~2cmシルト岩ブロックを少量含む
P5	3	10YR4/4	黑褐色	粘質シルト	ややあり	ややあり	φ1~2cmシルト岩ブロック・炭化物を少量含む(柱直)
	2	10YR4/3	[に] 黄褐色	粘質シルト	ややあり	ややあり	φ1~2cmシルト岩ブロックを少量含む



第 43 図 猿喰東館跡確認調査 2017-1 トレンチ・2 トレンチ遺構断面図

質シルトが交互に堆積していた。2017-3Tr はピット 1 基 (P 7) のみ検出している (第 43 図)。

平成 30 年度の確認調査は、L 字擁壁の設置と一部表土のすき取りが必要となったことから追加実施したもので、遺構検出面は擁壁下に保護されることから、遺構の位置を記録するに留めた。

2017-1Tr 西側に隣接する 2018-1Tr では、溝状遺構 1 条 (SD 1)、ピット 8 基 (P 1~8) を検出した。検出したピットのうち、P 2 と P 3 は 2017-1Tr の P 1・2・4 の延長線上にあり、その位置関係から柵列であった可能性がある。2018-2Tr、2018-3Tr では、遺構は確認できなかつた。いずれの調査も遺物は出土しなかった。

3まとめ

猿喰東館跡の調査は、これまで数次にわたり実施され、主体部や堀跡や帶曲輪の肩部をはじめ、多くのピットや溝状遺構が検出されている。

今回の調査では柵列や溝状遺構を検出するなど、2014 年度の調査成果と比較的似た状況が

確認できたが、過去の調査も含めて出土遺物は非常に少なく、遺構の時期や性格を判断する根拠に乏しい。近く報告書の刊行が予定されている主体部の調査成果も踏まえて、今後の検討課題としたい。



写真 11 猿喰東館跡発掘現場

第8章 谷地館跡

遺跡名：谷地館跡（宮城県遺跡地名表登載番号 59067）

所在地：気仙沼市常楽地内

調査原因：個人住宅（2件）

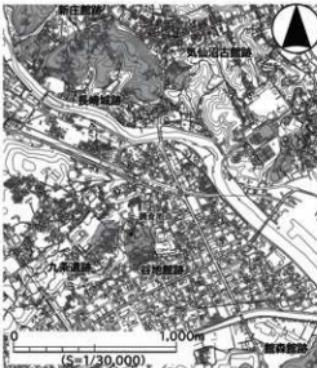
調査主体：気仙沼市教育委員会

調査期間：平成 30（2018）年 5月 23 日～5月 30 日

対象面積：計 459.63m²

調査面積：計 23.51m²

調査担当：石川郁、熊谷満、青木昭和



第44図 谷地館跡位置図

1. 調査に至る経過

調査地は、気仙沼市街を西から東に流れる大川

と神山川にはさまれた丘陵上、現在の宮城県気仙沼高等学校の東に位置する。

谷地館跡は長崎城三代城主熊谷直正が長崎邑西岡に砦を築き、2番目の弟直弘を館主としたとされている（気仙沼市 1988）が、遺跡周辺は宅地化が進み、これまで本格的な発掘調査も実施されていなかったため、その実態は明らかでない。

平成 29（2017）年度に実施した宅地造成に伴う確認調査で溝状遺構が検出されており、これが城館に関連する可能性がある唯一の成果とされている（気仙沼市教委 2019）。

今回の調査は宅地造成後の個人住宅建設工事（3区画分）に伴い実施したもので、先に検出されている遺構の再確認もその目的としている。なお、一連の調査で復興事業以外の緊急調査（国庫補助対象事業）の対象となる区画の発掘調査も実施している。

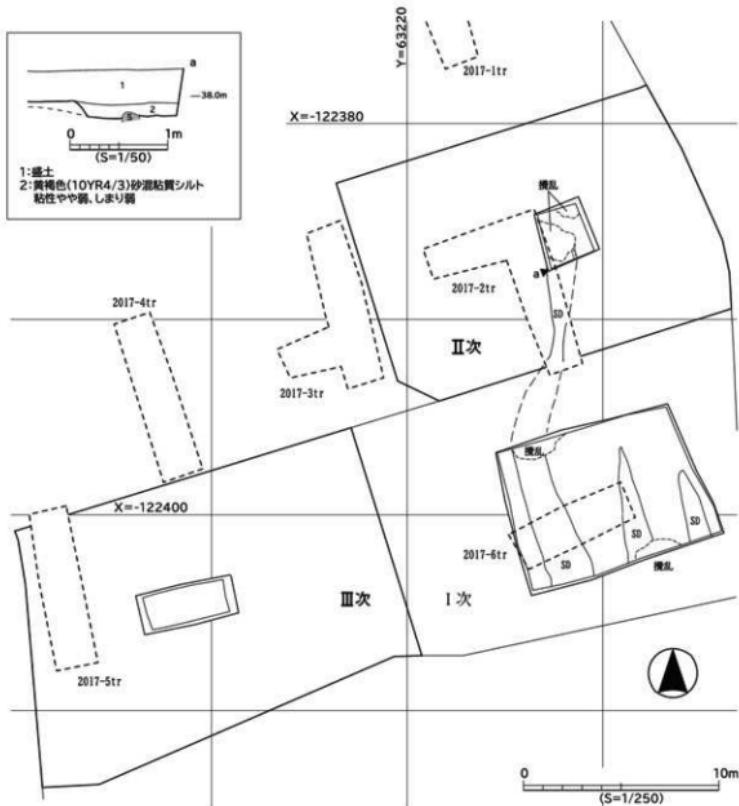
2. 調査成果

住宅建設を予定する3区画において区画ごとにⅠ次からⅢ次に分けて発掘調査を実施した。そのうちⅡ次・Ⅲ次調査が復興事業の対象（震災被災者の個人住宅建設）である（第45図）。

Ⅱ次調査は区画のほぼ中央に約3m四方のトレンチを設定した。平成 29 年度の確認調査で溝状遺構を検出しているが、その延長線上に位置する。

トレンチ内は全体的に攪乱を受けており、平面上は遺構の輪郭が確認できなかつたが、掘り下げ後の断面観察で地山面から約20cm下がる落ち込みを検出している。平成 29 年度調査の溝状遺構の延長線上にあたるが、これより北側には確認できなかつたことから、削平や攪乱により失われたものと考えられる。

Ⅲ次調査では約5m×2mのトレンチを区画中央に設定した。建物の基礎深度まで掘削したが盛土内であり、遺構・遺物は確認できなかつた。



第45図 谷地館跡確認調査トレーニ配置・断面図

なお、II次・III次調査では溝状遺構の延長線上での落ち込み以外に成果は得られなかつたが、I次調査で、南北方向に延びる溝を3条検出している。本書にはその詳細を掲載していないが、別途刊行を予定している報告書を参照願いたい。



写真12 谷地館跡2次調査トレーニ全景（西から）

引用・参考文献

- 気仙沼市（1988）：『気仙沼市史Ⅱ 先史・古代・中世編』
- 気仙沼市（1994）：『気仙沼市史VII 民俗・宗教編』
- 気仙沼市（1995）：『気仙沼市史VIII 資料編』
- 気仙沼市教育委員会（2017）：『気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書1』
- 気仙沼市教育委員会（2019）：『気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書2』
- 気仙沼市教育委員会（2019）：『気仙沼市内発掘調査報告書3』
- 越田 賢一郎（2004）「鉄鍋再考」『宇田川洋先生華甲記念論文集 アイヌ文化の成立』
北海道出版企画センター
- 紫桃 正隆（1973）：『史料仙台領内古城・館 第二巻』宝文堂出版販売
- 鈴木 公雄（1988）：『出土六道銭の組合せからみた江戸時代前期の銅錢流通』
- 『社会経済史学 53-6』社会経済史学会
- 閔根 達人（2003）：『鍋被り葬考—その系譜と葬法上の意味合いー』
- 『人文社会論叢 人文科学篇 9』弘前大学人文学部
- 宮城県鶴が浦高等学校社会班（1971）：『気仙沼市南最知遺跡発掘調査報告』

ふりがな	けせんぬまししんさんふくうかんれんいせきはくつちょうさほうこくしょ												
書名	気仙沼市震災復興調査遺跡発掘調査報告書4												
原書名	平成27~30年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う公共事業・個人住宅等関連遺跡発掘調査												
シリーズ名	気仙沼市文化財調査報告書												
シリーズ番号	17												
編著者名	青木 昭和												
編集機関	気仙沼市教育委員会												
所在地	〒988-8502 気仙沼市魚市場前1番1号 TEL 0226-22-3442												
発行年月日	令和2(2020)年3月31日												
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査面積	調査原因						
		市町村	遺跡番号	北緯	東経								
ほじかみにじたれあと 波路上内遺跡	ほじかみぬまし 気仙沼市	42056	590036	38° 49' 38.28'	141° 35' 12.71'	2015.9.7~ 2016.2.8	800.16m ² 漁業集落防災機能強化事業						
ほじかみにじいせき 波路上西遺跡	ほじかみぬましのした 波路上杉の下		590097	38° 49' 36.61'	141° 35' 10.05'	2016.7.19~ 2016.7.21	184.90m ² 道路灾害復旧事業						
こじてかいた 古館貝塚	こじてかいたし 気仙沼市	42056	63017	38° 53' 31.76	141° 38' 14.30'	2016.3.3~ 2016.3.10	125.00m ² 漁業集落防災機能強化事業						
みどりだいいせき 縄組遺跡	みどりだいいせき 気仙沼市	42056	59024	38° 51' 10.55'	141° 34' 37.04'	2016.5.23~ 2016.7.19	480.00m ² 個人住宅建設						
なべいせきはま 長磯浜遺跡	なべいせきはまし 気仙沼市	42056	59100	38° 50' 23.59'	141° 35' 15.12'	2017.2.9 2017.3.6~ 2017.3.8	24.41m ² 個人住宅建設						
さるはみわひしたあと 猫喰東遺跡	さるはみわひしたあと 気仙沼市	42056	59045	38° 51' 10.19'	141° 34' 41.91'	2018.3.12~ 2018.3.13 2018.5.31 2018.6.6	205.90m ² 個人住宅建設						
やちだあと 谷地鉢跡	やちだあと 気仙沼市			38° 53' 42.90'	141° 33' 44.03'	2018.5.23~ 2018.5.30							
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項					
波路上西遺跡	城館	中世		竪穴建物跡、土坑、掘立柱 建物跡、ピット、近世墓		縄文土器、土師器、石器、 鏡、鐵製品、石製品							
波路上西遺跡	散布地	縄文時代		遺物包含層		縄文土器							
古館貝塚	貝塚	縄文時代		遺物包含層		縄文土器							
縄組遺跡	散布地・集落	縄文時代・古代		竪穴建物跡、土坑、ピット		縄文土器、土師器							
長磯浜遺跡	散布地	縄文時代		竪穴建物跡、土坑、ピット		縄文土器、土製品、石器							
猫喰東遺跡	城館	中世		溝状遺構、ピット									
谷地鉢跡	城館	中世		溝状遺構									
波路上西遺跡・波路上西遺跡では、古代の竪穴建物跡・ピット群や近世墓が検出された。遺物では縄文土器・石器・土師器のほか、近世墓では鏡貨（北宋鏡・永楽通宝）・鐵製品が出土した。 古館貝塚では遺物包含層から縄文土器が出土した。 縄組遺跡では竪穴建物跡・土坑・ピット等を検出し、縄文土器・土師器・石器が出土した。 長磯浜遺跡では竪穴建物跡・土坑等を検出し、縄文土器・土製品・石器が出土した。 猫喰東遺跡では権列・溝状遺構を検出した。 谷地鉢跡では、溝状遺構を検出した。													
要 約													

気仙沼市文化財調査報告書第17集

気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書4

平成27～30年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘
調査事業に伴う公共事業・個人住宅等関連遺跡発掘調査

発行日 2020年3月31日
編集・発行 気仙沼市教育委員会
〒988-8502 宮城県気仙沼市魚市場前1番1号
印 刷 双葉印刷株式会社
〒988-0866 宮城県気仙沼市内松川41番地1号
TEL 0226-25-8215